



中学生の 「ありがとう」の手紙

令和 6 年度

いつもありがとう



『ありがとうの手紙』文集について

呉信用金庫 営業統括本部

くれしん『ありがとうの手紙』は、平成十九年の六月十五日「信用金庫の日」の全国イベントとして開始し、その後中学生を対象とした当金庫独自のイベントとして続けてきました。多感な中学生に「ありがとう」という感謝の窓から自分の内と外を眺めてもらう機会になればというのが、主催者の願いです。

「くれしん『ありがとうの手紙』は年を重ねることに充実したものとなり、応募総数も増加してまいりました。今年は域内三十の中学校から、一千二百三十作品の応募をいただきました。ご協力いただいた各中学校の生徒の皆さんと先生方に、ここよりお礼申しあげます。

選考につきましては、呉市教育委員会学校教育課の岩城様および広島文化学園大学の山内学部長、呉工業高等専門学校の上芝准教授・花澤講師による厳正な選考を行い、優秀賞十作品、努力賞四十作品を選出しました。ご応募いただいた作品は文集として編集しました。本文集が皆様方の青春の一ページを彩ることを祈念します。

(令和六年十二月十九日)

目次

山崎悠	谷侑奈	楠本都和	鬼塚果歩	柞磨瑛太	財前結菜	山口恋夢	奥心暖	平林未夢	川野賀咲楽	内田早紀	能宗泰雅	新原守	大津結衣	中田美鈴	岩井結花	川本楓	【努力賞】	岡田美裕	野村悠月	上瀬春香	瀬瀬友麻	中西絢香	肖香穂	大西輝	石崎悠生	鳥越望来	安藤悠馬	【優秀賞】
(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立白岳中学校)	(吳市立白岳中学校)	(吳市立昭和中学校)	(吳市立昭和中学校)	(吳市立昭和中学校)	(吳市立昭和中学校)	(吳市立昭和中学校)	(吳市立吳中央中学校)	(吳市立吳中央中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(海田町立海田中学校)	(海田町立海田中学校)	(大崎上島町立大崎上島中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島県立広島中学校)	(吳市立和庄中学校)	(吳市立仁方中学校)	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立吳中央中学校)	(吳市立吳中央中学校)	(吳市立阿賀中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(海田町立海田中学校)	
44	42	41	40	38	36	34	32	31	30	28	27	25	23	21	20	18	17	16	14	12	10	8	7	5	3	1		

吳工業高等専門学校	吳工業高等専門学校	廣島文化学園大学	吳市教育委員会	【選考委員】	宗政宙希	三好結愛	田中里桜	外田美波	小林美結	上中心都	大村彩里沙	上田航平	朝枝達哉	中村奏太	鳥井暖果	岡野愛結	岡本鳳雅	毛利滯	坂下千穂	吉田莉子	橋爪みやび	新本さくら	下垣内笑蓮	小濱瞬	猪野真矢	後藤優明	沖本侑瞳
講師	准教授	学部長	学校教育課		(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立吉浦中学校)	(廣島市立吉浦中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立仁方中学校)	(廣島市立仁方中学校)												
花澤哲文	上芝令子	山内京子	岩城祥子		81	80	79	77	75	73	72	71	69	68	67	65	63	61	59	57	56	54	53	51	49	47	45

「アドバイス」

海田町立海田中学校 安藤 悠馬

ぼくは、産まれた時から、片腕です。そのため、色々な事をあきらめてしまうこともあります。

でも、「何事もあきらめずに、やりきる」と言う事をお父さん、お母さんに教えてもらいました。保育園の時、運動会とび箱を使った競技がありました。みんなと同じように飛びたくても上手に飛ぶことができず、あきらめようとした時、お母さんに話しました。

すると、次の日自宅にとび箱が用意されました。家でぼくの飛び方を見ていたお母さんが「手をつく位置を、体の真ん中について、体を持ち上げる様にして飛んでみたら？」とアドバイスをくれました。するとその通りに飛んでみると、一回で成功しました。そのおかげで運動会でも無事飛ぶことができました。

次に逆上がりです。小学校になって友達ができている逆上がりをぼくもやってみたくまりました。片腕で鉄棒をやるのは難しく、どうやったら体が一回転できるのか分からず、何度も何度も練習しましたが出来ませんでした。どう

やったらできるのか家族に相談し、自分の練習する姿を見てもらいました。

見ていて気が付いたのか、お父さんが「最初に置いている足の位置をここにして踏み込んでやってみて。」と言うので意識してやってみるとクルツと体が回りました。

コツを掴んだぼくは、それから逆上がりが何度もできるようになりました。

うれしくて友達にも見せることができました。そして現在は、バトミントンを習っています。

始めたきっかけは、何かに夢中になりたいという思いをお父さんやお母さんが応援してくれたので始めました。

バトミントンを始めて約二年になりますが、最初は体のバランスが取れずシャトルを打つことすらできませんでした。それに、試合をする時にはサーブが必要ですが、片腕でどうやってサーブを打ったらいいのか悩みましたが、監督やコーチが色々考えてくれ、今では試合にも出れるようになりました。

ぼくは色々な人に支えられて今のぼくがあると思います。本当にありがとうございます。

これからも「あきらめずに、やりきる。」と言うことを忘

れず一生懸命ががんばります。

「習字の先生へ」

熊野町立熊野東中学校 鳥越 望来

先生は、私が習字を習い始めた小学四年生の頃の、私の字を覚えていますか？私が習字を習ってから、もう五年も経つので覚えていないのではないかと思います。すごく汚かったんですよ。急に文字が大きくなったり小さくなった。野球の変化球みたいな、いろんなパターンの文字がありました。今となっては小学生の頃のノートを見てみると、字が面白くて笑いそうになります。

そんな字が汚かった私でも、字が綺麗に書けるようになったのは先生のおかげです。習い始めの頃は、お手本をじっくり見て書いても全然書けなくて、どうすれば先生のよくな綺麗で美しい字が書けるようになるのか、とても不思議でした。

習字を習い始めて一年ぐらいが経って、いつも通り習字教室へ行くと、先生がすごくニコニコと笑顔だったので「どうしたの」と尋ねてみると、私が書いた毛筆の作品が、本の中の学生部特選作品というものに載っていた、とのこと。私は驚いて、その本を見ました。そこには、私が先生に教

えてもらいながら時間をかけて仕上げた作品が載っていました。まさか自分の作品が載るとは思ってもいなくて、先生と一緒に喜んだことを今でも覚えています。あの時は本当に嬉しくて、もっと上手になりたい、もっと頑張ろうと思いました。

中学二年生のとき、硬筆書写技能検定二級と、毛筆書写技能検定二級を受けました。この検定の二級の問われるレベルは、高校生・大学生・一般社会人程度、硬筆書写の専門的な技術及び知識です。習字を習っていれば、先生に教えてもらうのが普通だと思います。ですが私は、今まで先生に教わったことを生かして自分で頑張ってみたいと思ったから、自力で検定に挑みました。過去の問題を解いた時、楷書や行書だけではなく、草書も書かなくてはいけなくて、戸惑いました。これまでにほとんど草書を書いたことがなかったからです。絶対に一発で合格したいと思って、猛勉強しました。家でも、硬筆と毛筆の練習をたくさんしました。毛筆では、五十枚以上の半紙を使ったと思います。そのおかげか、二つの検定に合格することができました。大きな達成感を感じられて、頑張った良かったと思うし、ここまで頑張れたのも先生が支えてくれたからです。

先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いつも優しく分かりやすく、教えてくれてありがとうございます。いつも優しく大人っぽい綺麗な字になったね」と褒めてくれて嬉しかったです。私はもう受験生なので、そろそろ習字をやめるかもしれません。ですが、今の私は字を書くことが大好きです。まだまだ理想の字とは程遠いけれど、字を書いている時が一番楽しく感じます。だから、習字をやめても趣味として、続けていきたいです。あと、いつか師範の資格も取りたいです。私が取れるでしょうか？分かりませんが、頑張ってみようと思います。私に習字の楽しさを教えてくれてありがとうございます。

「自信と勇気をありがとう」

呉市立阿賀中学校 石崎 悠生

高橋コーチ、お元気ですか。高橋コーチが僕の通っているサッカー教室のコーチを辞められてから、もう少しで一年になります。コーチが突然辞められたので、僕はコーチにきちんとありがとうの気持ちを、伝えることができませんでした。

僕が小学六年生の春に、呉でSKCアカデミーという発達支援サッカーの教室が開かれることを知った母が「サッカーの体験に行ってみる？」と僕に聞いてきました。僕は運動があまり得意ではないので迷ったけど、一回行ってみようと思い、参加しました。

体育館に初めて入った時、コーチが僕に笑顔で元気に挨拶してくれて、うれしかったです。

練習の中で、あまりサッカーをやったことの無い僕に、コーチは、やさしく分かりやすく教えてくれました。ボールの蹴り方や、パスのしかた、ボールの止め方などの小さなことが、少しずつできくるとコーチはとても褒めてくれました。そして、僕が上手いはず落ちなくなっ

ている時に、コーチは僕が落ち着くまで待っていて、落ち着くとコーチは元気な声で、「元気になったね。じゃあいつてみよう！」と声を掛けてくれたので、自分のペースで安心して練習に加わることができました。

試合の中に判断に迷って上手くプレーができなかった時もすぐに気がついてくれて、どうしたらよかったのか、アドバイスをしてくれました。おかげで、少しずつ自分で判断ができるようになって、みんなのスピードに追いつけるようになりました。

僕はすぐに落ち込んでしまうのですが、立ち直る方法をコーチが教えてくれて、一緒にくり返しやってくれたので、自分一人でもできるぐらいになりました。

実戦形式の練習では、コーチと同じチームになった時はコーチのプレーを見て、コーチの様に上手になりたいと思います。コーチのまねをしてみたり、動きをよく見たりしていました。僕がシュートを決めるとタッチをして、すごく喜んでくれるので、もっと頑張ろうと思いました。

いつもコーチが、僕の気持ちや様子をよく見てくれて、僕が頑張れるように支えてくれたので、苦手だと思っていたサッカーも好きになり、難しいと思うことも挑戦してみ

ようという勇気を出すこともできました。また、僕も頑張ればできるんだと、自信を持つことができました。

今でも、練習の時にコーチに教えてもらったことを思い出して実践しています。そして、今のチームのコーチ達から教えてもらうことも頑張ってチャレンジしています。

コーチと会えなくなってから約一年の間にできるようになったことも増えました。いつか前より上手になった僕のプレーをコーチに見てもらいたいです。だからこれからも練習頑張ります。

コーチ、僕に自信と勇気をくれて、ありがとう。

「頑張り屋のお母さん」

呉市立呉中央中学校 大西 輝

僕がありがとうを伝えたい人は母です。母は外国人で、日本語も得意ではない中、毎日仕事に行ったり家事をしてくれたりします。自分が小さい頃からずっと支えてくれたのですが、中学一年生になった時に母子家庭になりました。最初は苦労しました。学校や役所等の書類を書く時に、ものによっては難しい日本語が使われていることがあります。そのため、母が時々分からないことを聞いてくれることがあります。その時に僕は「それぐらい調べてくれよ」と思ってしまうことがあります。そのような事が多々あり、母に対してどことなくそっけない態度をとってしまったことがありました。

けれども母は毎日、忙しい時でも自分の為に時間を割いてくれること。どんな時でも優しく話を聞いてくれることなど、考える程何度も支えてくれている事に気付きました。外国人で困ることもあるだろうけど、それを隠して毎日笑顔で接してくれる母は凄いなと思いました。だけど僕はそっけない態度をとってしまい良くないことをしたなと思

ます。それでも母は毎日ご飯を考えたり洗濯をしたり、部屋の掃除をしてくれます。

学校の行事や習い事、家での課題や悩み事、どんなことも母と一緒に居てくれるから頑張ることができました。今の環境にも慣れてきたけど、母が困ったことがあったら自分にしてくれたように助けていきたいです。

これからもずっと、母への感謝の気持ちを忘れずに、成長し続けたいと思います。母が今まで僕にしてくれたことに報いるために、もっと努力し、立派な人間になれるように頑張ろうと思います。

これからもよろしくお願いします。
そして、本当にありがとうございます。

「誰も経験できない、勝負への支えと感謝。」

呉市立天応学園 肖 香穂

私は親に感謝しています。私は卓球でいろいろな人に支えてもらいました。私は去年、中国に留学することを決め、半年間以上中国にいました。

最初はとても怖くて、とても心配でした。中国語もあまり話せないし、聞き取ることぐらいしかできませんでした。初めは、母がついてきてくれて少し安心だったけど、母が日本に帰る時に、これから長い日々が続くけど一人でやっていけるのかどうか、とても心配でした。けれど、私は、中国にいることを決めたので決めた限り、最後までやり切ると決めました。

母が帰る日。朝はとても早く、私はまだ眠っていました。しかし、そっと聞こえたんです。母が私の耳元で

「がんばれ、かほ」

と、なでながらささやいてくれて、私に背中を向け日本へ帰っていききました。私は寝ているにもかかわらず、涙がこぼれていました。私はこう思いました。これはがんばるしかない。私の気持ちには怖いものなんてないと思えました。

それから日々が経ち、中国での生活にも慣れてきました。たまには、とても日本に帰りたかったこともたくさんあります。けれど、母の言葉があったからこそ、今こうやって踏ん張れることができていのではないかと思います。苦しいこと、楽しいこと、悲しいこと、うれしいことなど、たくさん思い出がありました。誰もが体験することができない特別な環境をくれたのも親や、祖父、祖母、に感謝しています。私はみんなのためにも、自分のためにも、これからも全力で頑張っていきたいと思えました。だといって、すぐに結果が出るとはいえませんが、少しずつ努力を積み重ねていってがんばっていききたいです。

私はこの経験をしている限り、将来の夢や目標を近づけるためにもいろいろな人が支えて下さったり、これからは、新しく来た、後輩とも一緒にいいライバルでチームの代表として、私がお手本になれるようにがんばっていききたいし、それこそ結果を求められているこの厳しい世界、この勝負の世界でどうやって戦っていけばいいのか、今までさんざん教えてもらったことや努力、そして人々への感謝の気持ちを忘れずに、これまでやってきたから、自信をもって親など、いろんな人々に結果で恩返しできるようにしたいです。

す。

「バトン」

呉市立天応学園 中西 絢香

平成三十年七月六日。

私の住んでいる天応を、多くの土砂がおそいました。

当時、小学一年生だった私ですが、今でもあの日のことを鮮明に覚えています。

普段は一階で寝ていた私たちですが、念の為に二階で寝る準備をして、大切なランドセル等を二階に運ぼうとしていた時です。母がカーテンを開けて、外の様子を見ようとした瞬間、庭に凄い勢いで水が流れてきました。それと同時に停電になり、母と恐怖で泣いている妹と共に、手探りで二階に上がりました。

あつという間に目の前が滝のようになり、水かさが増え続けて、私たちも流されるのではないかと、不安に押しつぶされそうになっていました。だから、救助隊の方がボートで助けに来てくださった時、本当にうれしかったし、ほっとしました。また、私たちの家から、市民センターまでボートを押して運んでくれて、その間もずっと怖がっている私たちに、

「もう大丈夫だよ。」

などと、優しく声をかけ続けてくれたので、安心することができたし、貴重品だけしか持っていなかった私たちに、自分のタオルまで渡してくださって、本当に有り難かったです。

市民センターでも避難していた人に避難食のクッキーを分けてもらったり、行く先々で優しく接してもらいました。みんな、大変なはずなのに、たくさんの安心や元気をもらいました。

私が災害にあつて、心に残っていることの一つに、沢山の方から助けてもらったことがあります。

日本中から沢山の方が天応の為に足を運んで来て、炎天下の中、活動してくださいました。

小学校のグラウンドいっぱいには、日本各地の自衛隊の車、消防車、パトカーが停まっっていて、天応のまちを歩き回っていた姿を忘れることはできません。

そして今、天応では、天応小学校が天応学園になって、新しい体育館ができたり、道が整備されていたり、砂防ダムも完成して、前に進んでいます。

沢山の人に助けられて、支えられて、ここまで来ること

ができたのだらうと思います。

私たちを助けてくれた、多くの人は、どこに住んでいるのかも、名前も分からない人ばかりで、ちゃんとお礼も伝えられていません。

だからこそ、ずっと感謝の気持ちをもって生活したいし、次、もし災害があったら、私がしてもらったように、誰かに寄り添って、安心させてあげられるような人になりたいです。

「成長させてくれてありがとう」

呉市立仁方中学校 瀬瀬 友麻

私が今一番「ありがとう」を伝えたい人は、私が通っているピアノ教室の先生です。

私がピアノ教室に通い始めたのは四歳です。通い始めたとき私は、人見知りや先生と挨拶もまともにできず、自分からは何もできないような性格でした。しかし、そんな私を先生は受け入れてくれました。そのときの私の性格とは真逆で明るい性格の先生は、私にたくさん話しかけてくれました。そんな対応をしてくれる先生に私は、徐々に心を開いていくようになりました。

そして、内気な性格から外向的な性格へと変化していった私は、先生だけでなく近所の人などにも明るく接することができるようになりました。

また、ピアノ教室に通い始めたころの私は、礼儀の基本的なことしか理解しておらず、行動に移すこともできていたのかも曖昧なレベルでした。そんな私に先生は丁寧にすることや、敬語の正しい使い方を教えてくれました。先生は、言葉で教えるだけでなく、実際にどのようにするのか

私に見せて教えたりして、幼いころの私でも分かりやすいように工夫をしてくれていました。それで、私は少しずつ「礼儀」というものを理解し、教えてもらったことを行動に移せるようになっていきました。また、礼儀を学んだことで、私は優しく穏やかな心をもてるようになりました。

また、先生は何事にも否定から入るのではなく、私の考え方、行動をちゃんと認めてから、「こうした方が、印象が良いよ。」
としつかり考えて教えてくれます。

そんな気遣いをしてくれる先生に私はたくさん成長させてもらっています。特に、私を外向的な性格にしてくれたことと、礼儀を教えてくれたことにとっても感謝しています。

外向的な性格になるということは友達をつくるきっかけにもなるし、何かのグループのリーダーになろうと思えることにつながるんだと気付きました。また、色々な人との関わり方が分かるようになりました。

礼儀を教えてくれたことに関しては、人としての基本を学べただけでなく、誰かと関わる際に私に恥をかかないよ

うにしてくれたり、私の印象が良くなるように気遣ってくれていたんだなと思いました。

私は、ピアノ教室に通って、音楽に関することだけでなく、人として成長させてくれる大切なことをたくさん教えてくれているんだと思います。

私も先生のように誰かの手助けができるような人になりたいです。そう思ってくれた先生に、心から感謝を伝えたいです。

「ありがとうの言葉」

呉市立和庄中学校 上瀬 春香

私のおじいちゃんが少し前に亡くなりました。おじいちゃんは認知症という病気もあつたので、自分の思いをうまく相手に伝えるのが苦手でした。

おじいちゃんが色んなことを忘れても、最後まで忘れなかった言葉が「ありがとう」でした。

私が何を聞いても、おばあちゃんが何を言っても「ありがとう」しか言わないおじいちゃんでした。

デイサービスのスタッフさんに話を聞いても「いつもありがとう。ありがとう。と言ってくれて、こっちが幸せな気持ちにさせてもらってます。」と言われていました。

「ありがとう」しか言わないおじいちゃん。なんで「ありがとう」しか言わないのか考えてみました。

おじいちゃんは焼き鳥屋さんを五十年間頑張ってきました。

たくさんの人に「ありがとう」を伝えながら生きてきた人生だったのだと思います。

「ありがとう」は不思議な力を持った言葉だと思います。

「ありがとう」を言われていやな気持ちになる人はあまりいないと思います。

友達や家族とケンカしたり、いやなことがあっても、何かのきっかけで「ありがとう」を伝えることができたなら、仲直りのきっかけになります。

おじいちゃんは私達に「ありがとう」をたくさん伝えてくれて、自分の生きてきたことや大切なことを教えてくれたのだと思います。

私のお父さんもおじいちゃんに似てきて、いつも「ありがとう」ばかり言っています。

私も「ありがとう」が自然に言えて、人に伝えることができる人になりたいです。

人に自分の気持ちを伝えることは難しいことがあります。その時は勇気をだして「ありがとう」を言ってみようと思います。

先日、勇気を出してやってみたことがあります。

学校の帰りに横断歩道で白い杖について、信号待ちをしていたおじいさんが、赤信号で渡ろうとしていて声をかけました。

「まだ、青じゃないですよ。一緒に渡りましょうか？」

と声をかけました。とても勇気がいったけど、その人に、とても感謝されて、何度も「ありがとう。ありがとう。」と言ってくださり、とてもうれしかったです。

「ありがとう」の言葉はみんなを幸せにしてくれたり、感謝の気持ちを伝えるための大事な言葉だと感じています。私も「ありがとう」をたくさん言える人になりたいです。

「母へ」

広島県立広島中学校 野村 悠月

私の母は持病を持っています。そのため、母が入院してしまい、家にいないことが時々あります。そのとき、私は毎回、母の行動に感謝を感じています。

私は母が普段何かをしてきているのに対し、それがありまえだと思っていました。ものをくれたとき、私は「ありがとう」の一言も言わずに無言で受け取っていました。

他にも母は、毎朝だれよりも早く起きて朝ごはんを作ってくれたり、私が学校から帰って家についたら、すぐに、おいしいごはんが食べれたり、寝るときには必ずシーツがひいてあり、すぐにベッドに入って寝ることができたりします。

また、注意してくれるのに対し、口うるさく感じます。「起きなさい」、「だらだらしない」、「勉強しなさい」、「早く寝なさい」、「ゲームはそろそろやめなさい」そう言われることがたくさんありました。私はそれに腹が立ち反抗したことが何回かあります。

しかし、母が入院し家にいなくなると注意してくること

にも感謝を感じます。

母のやっていることを自分でやるようになりました。やってみると私が思っている以上に大変でした。朝ごはんを作り、洗濯し、料理を作り、掃除機をかけ、ものすごく大変でした。休める時間がなく、とてもしんどかったです。

それなのに、注意などをして私がよくないことをしないようにしてくれました。母が入院して家にいないことは、母が何をしていた、どんな苦労があつて、何を思っているのかが分かるいい機会になれたかな、と思っています。

私は母が入院したことにより、毎日、あたりまえのようにしてくれていることは、あたりまえではないということが分かりました。そして、母が毎日、毎日やってくれていることは私のためであるということが分かりました。毎日大変で忙しく休むことができないと思うと、私はこれから、何か母のためになることを少しでも行いたいです。

ありがとう、と言ったり、いつも注意されることに気がついたり、ささいなことの手伝いをしたりしたいです。

何より、いつも私のためにたくさんのことをしてくれた、感謝を自分から、伝えるようにしたいです。

「大好きなお父さんへ」

広島市立矢野中学校 岡田 美裕

お父さん、元気に過ごしていますか？最近の夏は暑くて溶けてしまいそうです。私が小さい頃は、あまり暑さは気になりませんでした。

お父さんが交通事故で亡くなってから十年程経ちます。今でも時々寂しくて一人で泣いてしまうこともあります。

昔は、よく兄と一緒に公園でサッカーをしたり、家族でお出掛けをしたね。お父さんの思い出は宝物として今も心に残り続けています。最近受験生になってプレッシャーに負けてしまいそうで、イライラしてしまっただけよとするところがあるけど、家族との写真やお父さんに貰ったお土産を見て頑張っています。また、母から聞くお父さんの話や、私の目元がお父さんにそっくりとよく言われることから、お父さんの存在を感じられて寂しさに負けずに、頑張ることが出来ます。

お父さんが亡くなった時、私は小さくて何も理解できていなかったけど、現実を受け入れることのできた今、伝えたい感謝の気持ちがたくさんあります。

私と遊んでくれてありがとう。その思い出は私の心の支えです。

私を叱ってくれてありがとう。お父さんのような大人になれるように頑張ります。

私に色々な事を教えてくれてありがとう。そのおかげで今は勉強を熱心に取り組んでいます。

私達を見守っていてくれてありがとう。お父さんの存在は今でも心強いです。

私を育ててくれてありがとう。お父さんには追いつけないけれど身長が高くなりました。

何より、私を愛してくれてありがとう。

今でも私はお父さんのことが大好きです。もう会う事ができなくて寂しいけれど、家族との時間を大切にしたいと思います。

家族には色々と迷惑をかけてしまうけれど、お互い支え合って頑張っていけます。

今までありがとう。そしてこれからもありがとう。

「「あめ」が教えてくれたこと」

大崎上島町立大崎上島中学校 川本 楓

私は「ありがとう」を伝えようと思ってても恥ずかしくて言えない人がいます。それはサッカーのジュニアクラブの監督です。私は、小一の時にサッカーを始めました。今までたくさん、助けてくれたり教えてくれたりしました。

その中で一番思い出に残っているのは、小五の時のことです。そのチームに五年生が一人しかおらず、試合に出るのも少し難しい状況でした。しかし監督は女子だけのサッカーやチームを探してくれ、それだけではなく両親が仕事で忙しい日には、往復四時間弱かかる場所まで毎回送迎をしてくれました。その頃の私は送迎してくれるありがたさには気づいていませんでした。

六年生になった時、仲のいい一つ上の女の子達がいなくなり、正直練習に行く事に乗り気ではありませんでした。また、単純に長距離を走るのが嫌だったというのもあると思います。正確には覚えていませんが、準備体操が終わった後にグラウンドを二周するようになりました。長距離が苦手な私にとってすごく苦痛でした。

でも今となっては一年以上続けていたおかげで長距離走は下から数えた方が早かった私が、クラスの女子の中で一、二番を競えるくらい得意になりました。あの頃は無駄だと思っていた練習がこうやって結果に出て嬉しいと思えるのは監督のおかげだと思います。

クラブチームを引退し、中学生になった私はサッカー部に入部しました。監督は中学校の練習にも来てくれました。しかし、部員の減少により合同チームで大会に出ることになった中二の夏、小一から始めたサッカーをやめ、バレーボール部に転部しました。新しいことに挑戦する楽しみと今までたくさん教えてもらったのに申し訳ない気持ちがありました。

その後、バレーボール部にも慣れ、迎えた三年生最後の大会の日。監督が会場に来てくれたのです。いつも笑顔で、怪我をしても隠すような方で、もうチームの一員ではない私を気遣ってくれた監督。見に来てくれただけではなく、私が大好きな「あめ」を黙って差し入れしてくれたのです。その話を聞いた瞬間、今まで気づくことのなかった優しさに気づくことができました。監督は引退試合が終わったらすぐに帰ってしまったそうです。監督に会っていた

としても「ありがとう」とは言えないと思うけど、とても嬉しかったです。

最後まで近くで支えてくれた監督には、感謝しかないです。引退試合がなかったら近くで支えられすぎて、優しさとありがたさに私は気づくことができなかつたかもしれませんが。

この手紙を書いているのも「ありがとう」と直接言うことは恥ずかしくてできないと思います。でも努力をすることの大切さと、優しさを忘れずに、これからたくさんのお話を頑張っていきたいと思えます。

監督、本当にありがとうございました。

「私の大切なおばあちゃんへ」

海田町立海田中学校 中田 美鈴

私の大切なおばあちゃんに、今まで心にしまっていた、
ありがとうを、たくさん言うから聞いてよ。

まず、私がまだ一年生にもなっていない時、はじめて電車に乗って、一緒に手を組んで、私はドキドキ、ワクワクしながら乗ってさ、私におばあちゃんは優しく電車の乗り方も教えてくれて「ここでおおりて、おいしいパンを買って家で食べよう。」と言ってくれて、ありがとう。あそこの、白くてチョコチップとかが入っていたパンおいしかったよね。

二つ目のありがとうはね、おいしい野菜のためや、お菓子、食べ物をたくさん食べさせてくれてありがとう。野菜のためを作るおばあちゃんを後ろから見たいけど、カッコいいし何でそんなにいいにおいが出るのと、あの時の私は思っていたし、遊びに行った時はさ、毎日コンビニ行ってお菓子を買ったのを思い出したよ。

私は、恥ずかしがって言えてなかったから、もう一度、言わせてね。本当にありがとう。

三つ目はね、お泊まりをした時に、一緒にベッドで寝かせてくれてありがとう。一年生にもなっていなかった私は、夜が嫌いで、怖かったんだと思うよ。いつも、お泊まりの夜になるとおばあちゃんのベッドまで、静かに行って、こっそり入って寝ていたこともあったし、おばあちゃんがギョツとして寝させてくれたこともあったよね。おばあちゃん、せまかっただろうし、私の寝ぞうが悪くて、眠れなかったかもしれないのに、一緒に寝てくれてありがとう。

四つ目は、将棋、花札などの昔の遊びを教えてくれて、ありがとう。私でもできる簡単な将棋を教えてくれてさ、全部おばあちゃんに負けるから、めっちゃ怒ってしまった時もあったよね。花札も、将棋と一緒に私に分かるまで、ルールを教えてくれた時もあって、二回ぐらいは、勝ったこともあったし、家の中で、できるから暑い日や寒い日とかたくさんしたよね。花札、将棋と、普通なら知ることのできない、昔の遊びを教えてくれてありがとう。とっても、楽しかったよね。

今はもう会うことのできないおばあちゃんに、四つもの心にしまっていた「ありがとう」を言えたよ。

空の上でちゃんと聞こえた？

本当に、

一年生の時言えなかった言葉を伝えることができたよ。

「幸せの恩返し」

熊野町立熊野東中学校 大津 結衣

私が、今一番ありがたうを伝えたい人、それはお母さんです。

お母さんへの感謝の気持ちを今から伝えていきます。

最初に、私は今年、中学三年生になって十五才になりました。今年は九年間の義務教育が終了し、本格的に自分の将来のことを考えたりする時間が増えてきます。

私は将来の夢が保育士です。小学校のころからの夢で、ずっと家族のみんなにも話していました。そしてその中で一番夢を応援してくれたのがお母さんでした。

中学二年生の六月、職場体験へ向けて事業所を決めていたとき、私が選んでいた事業所は幼稚園で、もう二回目の希望をとっていた段階だったこともあって、同じ事業所を選んでいた人が多くて、面接をして合格した人が選ばれることになり、私は人生初の面接をしました。

トップバッターで緊張してその日は

「意味わからんこと絶対言ってしまった！」ってずっと、ネガティブになっていました。

その日の夜、そのことをお母さんに言ったら、「今日沢山ミスっても大丈夫よ！だって高校入試でその緊張した中の雰囲気は今少しでも慣れとったら、面接とか自己表現で気持ちが楽になるし自信つくじゃん！」

と言ってくれて、結構前向きでポジティブな気持ちになりました。そして結果、選ばれて希望通りの事業所に行けて、沢山の経験をする事ができました。

あの日、お母さんの言葉があってもなくても、結果は決まってたけど、これから私自身が緊張する場に立った時「今がんばったら次につながる！大丈夫！」

と前向きになれるし、不安だったら、そばにアドバイスをかけてくれる頼りになるお母さんもいる！と思えるなど感じました。

そして、今までこんなになんげられたのは、お母さんがいてくれたからだなと思うし、ありがたうと心から伝えたいです。

いつもお母さんとは沢山会話を通して楽しんで笑いあったり、母の日やお母さんの誕生日の日には料理を作ったりプレゼントを渡すなどして親孝行をたくさんしようと思っかけています。

いつも性格が似てて、笑うツボが同じでお互いいじり合えるくらい気軽に過ごしている今、私はお母さんの所へ娘として産まれることができて、幸せだなんて感じるし、ここまで元気に育ててもらえてよかったなど、アルバムをみたりする度に思います。

今、ここまでのことをしてくれたお母さんへ、まだ、全然恩返しできてないなって思うから、これから人生かけてゆっくり恩返ししていけたらいいなって思いました。

呉市立呉中央中学校 新原 守

今年の誕生日プレゼントは自分の部屋だった。勉強がよ
くはかどるようになったので、両親にはとても感謝してい
る。でも実際には両親以外にも、たくさんの方の存在のお
かげで部屋が成り立ったということに気付いた。

例えば、勉強机で考えてみても、部品の製作から完成品
の設置までに、多くの人が関わっているといえる。勉強机
の部品の製作には、木材などの材料が必要になるので、ま
ずはそれらを作り出す人々が欠かせない。それらの材料を
もとに、次は職人さんが部品を製作する。さらにその次に、
箱詰めされた部品が、トラックや貨物列車などの運転手
さんによって売場である家具屋まで運ばれる。

そうして家具屋に運ばれた勉強机の部品は、家具屋の店
員さんとぼくの両親との間で売買が成立すると、ようやく
ぼくの家に届いたというわけだ。

最後にぼくの父が勉強机の部品を組み立てて、ついに自
分の部屋に完成品の勉強机が設置されたということになる。
ぼくはこれらを通して、部屋の一部である勉強机にも、

部品が製作されてから完成品が設置されるまでに、たくさ
んの人の「物語」があったのだなと気付いた。これから
は、製作にたずさわった人達や、勉強机を売ってくださっ
た家具の店員さん、そして改めて勉強机を買ってくれた両
親にも感謝して、勉強机を大切に使用していきたいと思う。

また、この「物語」は勉強机以外にも、身の回りにある
物全てが作り出してきたとも思う。ぼくの部屋でいうと、
ベッドやタンスなどの家具や、エアコンや扇風機などの家
電、目覚まし時計や文房具などの小さい物までもがである。
これらは全て、製作する人達や売ったり買ったりする人達
がいないとすると、部屋に置いてあることは決してありえ
ないのだ。

生活に役立ついろいろな物を使うことができるのは、物
を買ってくれる人がいるだけでなく、物を作ったり売った
りしてくださる人達もいるおかげであると気付くことがで
きた。ぼくは自分の部屋ができたことについて、物を買っ
てくれた両親だけではなく、その物を作ってくくださった人
達や売ってくださった人達などにも、

「ありがとうございます！」
と感謝の言葉を伝えたい。そして、今まで以上に物を大切

に使っていきたい。

「お母さん、いつもありがとう」

呉市立呉中央中学校 能宗 泰雅

僕の母は、僕が小学三年生の頃、外耳道癌という病気になった。ステージは四。癌のステージは四段階に分けられ、その中のトップクラスが四。そう、いつ死んでもおかしくない状態なのだ。

病気になる前、僕は母に口ごたえしたり、親子喧嘩をしたり、母を困らせることしかしてこなかった。時には、「お母さんなんていらぬ。」や「どこかに行ってしまえ。」と思うこともあった。

母が癌になったこと、入院すること、生きて帰ってこられないかもしれないことを父から聞かされた。その時、なんて返事をすればよいか分からなかった。

数日後、母が入院するため、荷物を持って下に降りてきた。出発前、母が僕に向かって「がっちゃん、お母さんしばらく帰ってこれないからね。色々がんばって、お父さんの言うことちゃんと聞くんだよ。」と言った。僕は、「うん。」とうなづくことしかできなかった。父と母が家を出たあと、僕は今までにないくらい大泣きした。色んな感情がこみあ

がってきて、何をすれば良いのか分からなかった。

結局、母は約三ヶ月入院し、完治とはいかないが生きて家に帰ってきた。放射線や抗がん剤治療のせいで髪の毛は抜け、どこかやせているように見えた。久々の母がつくる料理を食べると、また泣きそうになった。

そんなこんなで母が癌になり、はや五年が経とうとしている。今でも定期的に病院に通っている。つい最近、母の脳にかげが発見された。またあの日々がやってくるのか？と思ったが、お医者さん曰く、放射線治療による軽いやけどのこと。心配する必要はないが、経過観察が必要とのこと。一安心したが、油断はできない。

これを踏まえ、母にいつもありがとうと伝えたいが、恥ずかしくてなかなか伝えられない。そこでこの文を書きました。

お母さん、いつもこんな僕のためにご飯を作ったり、説教をしてくれてありがとう。これからも元気で、おもしろい僕の母でいてください。長生きしてね！

バカな息子泰雅より。

「転校がくれたもの」

呉市立昭和北中学校 内田 早紀

「広島県呉市からきました。内田早紀です。よろしくお願ひします。」

小学一年生の夏休み、私は転校した。その頃は、小学校に入ったばかりだったので特に親しい友達もおらず、さみしくも悲しくもなかった。

私が転入した学校は、大分県の佐伯市という所にある、小学校だった。クラスのみんなはとてもやさしく、友達もたくさんできた。休み時間はいつも一輪車をしていたから、一輪車仲間もできた。行事ごとにも楽しく、運動会では毎年、みんなで一緒にダンスをした。

二年生、三年生、四年生。そして私は、あつという間に五年生となっていた。五年生の冬は大忙しだった。まずは六年生さんのために、卒業式の準備をした。花壇を運んだり、パイプ椅子を出したり。自分も、来年はこのきれいに整えられた体育館で卒業するのだと思うと、準備にも力が入った。

そして、次なる五年生の仕事は、委員会だった。六年生

は卒業してしまうため、三学期中には、五年生が引き継がなくてはならない。私は、悩みに悩んだ末、図書委員会に入ることにした。さらに、あろうことか、委員長になってしまった。

忙しいけれど、充実していた五年生の冬。

「転校。」と父と母から告げられたとき、私はかなり冷静だったと思う。でも、今思えば、冷静なふりをしていただけだったのかもしれない。

図書委員長は諦めるしかなかった。クラスのみんなからは手紙をもらった。それでも、転校するという実感は、一向に湧いてこなかった。

みんなとお別れして、いよいよ明日が引越しというとき、急にさみしくなった。もう一生、クラスのみんなとは会えない。いつも明るいあの子とも、仲良しのあの子とも、少しやんちゃなあの子とも。悲しくなって、泣きながらみんながくれた手紙を読んだ。一年生のときは、悲しくなんてなかったのに。でも、手紙を読んでいるうちに、どんな笑顔があふれてきた。

どの手紙も、「頑張ってね！」や、「次の学校もきつと楽しいよ！」など、私のことを励ます言葉ばかりだった。

もう遅いかもしれないけれど、みんな、本当にありがとう。次の学校にも、こんなに温かい友達がいてくれたらいいな。

「大分県佐伯市からきました。内田早紀です。よろしく
お願いします。」

「二年間を通して」

呉市立昭和北中学校 川野賀 咲楽

先生、私を二年間受け持ってくださいって、ありがとうございます。ありがとうございました。

春休みも終わり、私は五年生に進級しました。友達ができるのか、クラスで一年も過ごせるのか、とても不安でした。そんな時に先生が教室に入ってきました。先生は少し怖い先生という噂があったので、もっと不安になったのを今でも覚えています。

そこから一ヶ月程度、私はいつ怒られるのかと内心ビクビクしながら過ごしていました。そんなある日、私は絵の具道具を家に忘れました。半泣きで先生に忘れてしまったことを伝えると、先生は笑いながら許してくれました。半泣きだったのを忘れるほど驚きました。(てっきり怒られると思っていたのに)私が思っているほど怖い先生ではないのかなと思いました。

十月になり、運動会が行われました。運動会が大の苦手な私にとって、運動会という行事はとても苦痛でした。五年生のころ、私はクラスで一番とっていいほど足が遅か

ったです。そんな私を先生がアンカーの一つ前で、足が速い子に挟まれるようにしてくださいました。先生にバトンの渡し方を教えてもらったり、友達とバトンパスの練習をしたりしてとても楽しかったです。

ですが、当日私のペアの子が欠席で、私が二回走ることにになりました。内心(なんで)と思いつつ、言われたのだから最後まで走りきろう、という思いでリレーに臨みました。運動会、五年生では私たちのクラスが一位で幕を下ろしました。運動会が終わった後、先生が、

「川野賀さんのおかげだね。」

と言ってくださいました。先生は冗談で言った言葉かもしれないけれど、私にとって忘れられない言葉となりました。それからというものの、何か運があったのか、六年生も先生に受け持ってもらいました。

初めの頃は、先生のことを少し怖い人だと思っていました。ですが、二年間を通して、真面目で熱心、生徒のことを一番に考えている人だと分かりました。

私は先生に変えてもらったことや教えてもらったことが多くあります。そのことを忘れずに過ごしていきたいです。先生、ありがとうございました。

「私の尊敬している人へ」

呉市立昭和北中学校 平林 未夢

私の家族は母とお姉ちゃんだけです。なので母は一人で二人のことを養ってくれています。朝早くに家を出て仕事に行き、昼に一度帰ってきて私の晩ご飯を作ります。その後また仕事に出て、夜遅くに帰ってきます。

そして、今お姉ちゃんは入院しています。肩にがんができました。そのため今家にいるのはほぼ私だけです。そこで私は家族みんなでいられる大切さを知ることができました。

初めの方は、自分の時間ができる。と喜んでいました。でも、一人の時間が増えていくにつれ、さみしく感じるこが増えていきました。今まで一緒にゲームをしたかったとき、話を聞いてほしいときなど、今まで願わなくてもできていたことが、願ってもあまり叶わないと知るとさみしくなりました。

でも、実際母に話しかけられたときは、冷たく接してしまいます。心の中では友達と話すときのように明るく接しようと思っても、表ではなかなか言うことができません。

そんな私にも母は私を笑わせようとしてくれたり、嫌なことがあったときには話を聞いてくれました。母子家庭になつてからも、前と変わらず明るくふるまってくれたり、お姉ちゃんが病気になるってしまったときには、私達の前では弱い姿を見せないようにするために、お風呂で泣いていたのを知っています。そんな母のことを私は尊敬しています。

もし、私が結婚をして母になるときがきたら、私も母のようになれたらいいな。と思っています。

昔に言っていた、「もし二人のどつちかに子供ができたら『ゆ』の文字を入れてほしいな。」という願いを叶えたいと思っています。

今まで働けないので恩返しや、変わりにお金を払ったりすることはできないけど、高校生になってバイトをしたり、大人になってお金をかせげるようになったら、お金をたくさんためて、家族三人で旅行につれて行ってあげたいです。改めて、いつも私達のために働いてくれて、ありがとう。

「私の感謝したい人は」

呉市立昭和中学校 奥 心暖

私が好きな教科は理科です。

私は小学生の時、学校が好きではありませんでした。

そして理科も好きではありませんでした。

「学校はめんどくさいところ」

「学校は勉強するところ」

小学生の時の私はそう思っていました。そんな私の考えが変わったのは、中学校に入った春でした。

中学校に入学して少し過ぎた頃、理科の担当の先生に出会いました。入学式の時早く終わらないかなという気持ちでいっぱい、先生達の自己紹介を聞いてなかったため、どの先生が何の教科を担当しているのか聞いていませんでした。まったくと言っていいほど興味のなかった理科が、担当の先生の分かりやすく楽しい授業のおかげで、理科は面白い教科なのだと思うことができました。

授業が終わって先生に話しかけに行きました。先生の話はとても面白くて話すことが楽しくなり、苦手な学校もだんだん楽しいと思えるようになりました。

そこから他の教科も少しずつ頑張れるようになり、部活面でも勉強面でも両立し、学校生活を充実しています。

ある日先生の授業を受けている時に、ふと先生みたいな面白くて分かりやすい教員になれたら、毎日楽しいだろうなと思いました。その日の総合の時間に自分のなりたい職業を調べる「職業調べ」というものをしました。私には、なりたい夢がなかったので少し考えていました。数日経った頃に、理科の授業を受けている時に、私は理科の教員について調べようと思いました。そして、総合の時間に理科の教員になるためには、どんなことが必要なのか、そもそも教員になるためには、勉強か調べている時に自分が鳴りたい夢を見つけることができました。

それは「理科の教員」です。

教員になることは難しいことは分かっているけれど、それでも先生を尊敬しているという気持ちが勝ちました。

でも私は「理科の教員になりたい」という夢を誰にも伝えていません。なぜなら教員は毎日忙しいし、教員になりたいなんて伝えたら、馬鹿にされるかもしれないと思ったからです。

でも、いつか自信を持って「理科の教員になりたい！」と言えるようになりたいです。

自分が嫌いだった学校という場所を、楽しいと思える場所にしてくれた先生には本当に心から感謝しています。

それだけではなく、自分のなりたい・目指したいと思う夢まで見つけるきっかけになりました。本当にありがとうございます。これからも「理科の教員」になりたいと思う気持ちを曲げずに、今自分にできることをして後悔しないように過ごして行きたいです。そして先生だけではなく、自分の周りにいる人にも感謝をすることを忘れずに生きていきたいと思えます。

努力賞

「いつも ありがとう」

呉市立昭和中学校 山口 恋夢

私はいつもある人に助けられています。それは、祖父母と母です。

私の祖父母と母で花屋を営んでいて、私はよく手伝いに行きます。お盆やお彼岸、年末、卒業入学時期など、一年を通してとても忙しくなる時期が多くあり、花束やアレンジメント等たくさん注文が入ります。忙しい時期は、家に帰るのがいつも深夜近くになり、それでも、

「疲れた、めんどくさい。」

などの言葉を一切口に出さず、頑張っています。

私は、少しの間立ったり動いたりするだけで疲れるのに、毎日立ちっぱなしで、重いバケツ等も何度も運んで一生懸命頑張っていて、とてもすごいなといつも尊敬しています。

なぜ、たくさん動いて疲れているはずなのに、毎日頑張っているのかを聞いてみました。

それは、

「いつも笑顔でお客さんが花を買ってくれるから。自分た

ちも、頑張ろう！と勇気をくれるから。」

と言っていました。

祖父母と母は、いつもお客さんに、

「いらっしやいませ。ありがとうございます。」
と気持ちをこめて言っています。

母たちは、

「お客さんが来なかったりしたら、自分たちは生活ができなくなるし、お客さんがいてくれるから頑張れるんよ。」

と言っていて、私は大きな声で挨拶することは、あまり得意ではないけれど、手伝いをする時には、しっかり大きな声で挨拶することを心がけています。

また、私はピアノを習い始めました。家から遠いのですが、仕事が忙しい時も、私のために仕事を一旦止めていつも送り迎えをしてくれたり、仕事だけではなく、家事などもありとても大変そうです。

私が花屋で手伝えることは、花をスリーブという透明のセロハンに入れたり、水換えをしたり、葉っぱ取りをしたりすることです。

あと、家では、洗濯物を干したり、畳んだり、料理のお手伝いをしたり、幼い弟の面倒をしています。

私は祖父母と母に、

「助かった、ありがとう。」

と思われるように最低限、できることを見つけて頑張っていこうと思います。

これからも迷惑をかけてしまうことが、たくさんあると思うけど、これからもよろしくお願いします。

そして、いつもありがとう。

「家族を支えてくれた父」

呉市立白岳中学校 財前 結菜

私の父は、口が悪くてすぐに母と喧嘩になってしまっ、
チョッと乱暴な父でした。でも、心優しく、欲しい物を買
ってもらったり、行きたい所へ連れてってくれたり、本当
に優しい父でした。

しかし、その父は七月六日、日が明けた直後、ガンでこ
の世を去りました。母は突然の死を受け入れることができ
ませんでした。

私は、受け入れることができるのかという不安と絶望感
を人生で初めて味わいました。現実を受け入れることがで
きずに、一旦家に帰りました。

そして、私と母は父に伝えたい事と感謝の気持ちを思い
に手紙を書くことにしました。弟と妹も手紙と、絵を描き
ました。私は父に感謝の気持ちを胸にとうとう葬式を迎え
ました。

父が、目をつぶっている姿を見て、その顔を見ると、家
でよく見かけるぐっすりした寝顔とそっくりでした。そん
な父に私はこう言いました。

「父さん、あの時のこと覚えてる？ まだ、父さんが家に
いるとき、母さんを支えてよって、言ってくれたじゃん。
だからさ、私も父さんみたいに、母さんを支えるからね。
ちゃんと私のことを見てよ。父さんも、母さんも見守って
あげてよ。私も頑張るから。母さんのこと感謝してあげて
ね。」

と最後に伝えて葬式が行われました。

葬式が終わり、その夜、いとこと親戚の人が来てくれ
ました。一緒にご飯を食べて、寝ました。

二日目の朝、私は久しぶりにぐっすり眠れました。いと
こ達が買ってきてくれたおにぎりや弁当など食べました。

朝の十時に、父と最後の別れに花束を乗せ、私と母が
用意した手紙を父に渡して、火葬に向かいました。私は、
その時耐え切れなくて、泣いてしまいました。でも、伝え
たい事はちゃんと本人に直接言えたので、よかったと思
います。火葬の時間になり、父に最後の挨拶をして骨まで燃
やされました。

最後に私が一番父に伝えたいことは、約束守るように
母を支えて充実した家庭にするために一生懸命手伝って、

父のために家族のために頑張るから、自分の家族を見守ってほしいことです。今でも、感謝しています。

どんなに痛くても苦しくても、最後の二カ月働いてくれた姿、とてもかっこよかったし、何よりもすばらしかったです。

いつも、家族のことを支えてくれて、ありがとう。

最後まで頑張ってくれて、ありがとう。

「後輩からの励ましの言葉」

呉市立白岳中学校 柞磨 瑛太

僕は今、「ありがとう」という言葉を伝えたい人がいます。それは、僕が所属している吹奏楽部の後輩です。

後輩の良いところは三つあります。

一つ目はリーダーシップがあるところです。例えば、コンサートの曲決めの進行を自ら率先して行ったりしていました。その時僕は、素晴らしい後輩だと感じしました。

二つ目は、チームをまとめる力があるところです。これから話し合いをすると先生に言われた時は、

「おおい、みんな。静かに座ってよ。」

とみんなに聞こえるような声で言っていました。

また、吹奏楽コンクールが近くなってきた時には、

「よっしゃ・・・！ みんな頑張りましょう！」

とみんなを鼓舞する一言を言ってくれたりもしました。

このような、みんなをまとめる力は僕にはないので、とてもすごいと思いました。

三つ目は、思いやりがあるところです。みんなで合奏していく中で、僕が苦戦してしまうところが増えていき、僕

は中々上手に演奏することができませんでした。

休憩の間、僕は落ち込んで部屋の隅っこに行ってしまうました。すると後輩が、

「先輩、ずっと落ち込んでてもしょうがないですよ。しっかり元氣出して、頑張りましょうよ。」

と言ってくれて、僕も頑張りようと思うようになりました。

また、吹奏楽コンクールの表彰式でも。僕たちの結果を、ドキドキしながら待ちます。そして、審査員の方から、

「呉市立白岳中学校、優良賞。」

と言われました。僕はその瞬間、悔しすぎて大号泣してしまいました。すると後輩から、

「先輩、僕らは優秀賞を目指して頑張ってきましたけど、こういう結果になって僕も悔しいですよ。けど、僕らの中では今ままで一番良い演奏ができたんじゃないんですか。

また次に向けて頑張りましょうよ。」

と言ってくれました。確かに悔しかったけど次に向けてまた頑張っていこうという気持ちになりました。

後輩は、良いところをたくさん持った素晴らしい人だと思っています。あれらの励ましの言葉がなかったら、僕はここまで頑張っていていなかっただでしょう。

僕は後輩に言いたいことがあります。

「こんな素晴らしい励ましの言葉をたくさんくれてありがとう。そして、あと少し一緒に頑張ろう。」

「私の心の支え」

呉市立天応学園 鬼塚 果歩

私が今、感謝をしたい人は地域の方々です。地域の方々は雨の日も欠かさずいつも私たちの登校、下校を見守ってくださいありがとうございます。そのおかげで私たちは、安心安全に過ごすことができ、とても支えてもらっています。

そして私は、地域の方々とは日々交わしている「あいさつ」にいつも元気をもらっています。明るくてやさしさが溢れている挨拶は、とても心を温かくしてくれたり、癒してくれたりします。本当に感謝しきれない思いでいっぱいです。

しかし、その「感謝」というものはなかなか口に出せないものです。感謝を伝えるということにはなぜか照れくささが混じってしまうことがあります。「いつもありがとうございます。ごさいます。」この一言には、大きな力があるなあと日々思います。言葉としては長くはないですが、この一言を伝えるだけでお互いが嬉しく、明るくなれるのだと思います。

そのため、感謝の気持ちを相手に示すためには照れくさは捨てて「ありがとう」と伝えなければなりません。感謝はこのことだけに限らず様々な場面に存在します。照れ

くさを捨てて日頃からの「ありがとう」を増やしていきます。

私が地域の方々に感謝していること、それはもう一つあります。地域の方々にはよく「がんばれ」ではなく、「応援しているよ」と言ってくれます。この言葉には、とても言っても良い程救われています。「がんばれ」という言葉ももちろん嬉しくなります。でも、「応援しているよ」という言葉は私の心にしっかり寄り添ってくれているような気がして、「よし、頑張ろう」という思いがふつふつと湧いてくるのです。それと同時に自分が頑張ってきたことをしっかりと理解してくださっているように感じるので。だから、私はこの言葉が大好きです。

このように、私は日々地域の方々に救われたり、支えられたりしています。その一つ一つのことを「当たり前」ではないことを理解して、しっかり日頃から「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えていきます。これからも、感謝の気持ちを忘れず関わりを増やしていけたらいいなと思います。地域の皆さんいつもありがとうございます。

「思いやり」

呉市立天応学園 楠本 都和

二〇二四年一月一日に、石川県能登半島で、大きな地震がありました。僕は七月二十九日に、能登半島に行つてボランティア活動を行いました。

災害は、多くの命をうばつて、人々を怖い思いにさせます。ニュースでは、能登半島にあるたくさんの家がくずれがレキになってしまつている映像や、大きなビルが崩壊している映像、たくさんの被害を受けて悲しんでいる人々の映像が映っていました。

能登半島に着くと、その姿に驚きました。半年もたつているのに、いまだ復旧が進んでいなかったからです。ボランティア活動の内容は、炊き出しをしました。すると災害の被害で固まっている人が大勢来しました。日当たりが強くて、ものすごく暑かったです。だけどいろんな人から、「ありがとね。助かるよ。」

という言葉聞いて、もっとたくさんの人の助けになって、笑顔にしたいと思えました。「ありがと」という一言で、やってよかつたと思えるようになりました。

災害は、人の手で止める事は出来ないけど、人の助け合いで、笑顔になる人が増えていくのではないかと思います。少しでも、災害によって苦しんでいる人や悲しんでいる人たちの役に立ちたいと思いました。

能登半島で地震が起きた後には、おそらく、いろんな人がボランティアに行ったと思います。たくさん思いやりを持った人々が、たくさんの人をボランティア活動で、困っている人を笑顔にしてくれたと思います。そして笑顔にしてもらった人は、感謝の気持ちを言葉にして伝える事で、これからの人との関わり合いなどや、協力する事などにつながっていくと思えました。

「ありがと」で人が笑顔になるから自分も、ちょっとした事や、ありがたいと思つた時には、すぐに「ありがと」と言葉に出して伝えるようにしたいです。

そうする事で、自分にも「ありがと」が返ってくると思いました。思いやりのある人がどんどん増えていくと、その分、笑顔になっていく人が増えていくようになっていくと思います。

「私を応援してくれて、ありがとう。」

呉市立天応学園 谷 侑奈

お母さん、お母さんはいつも笑顔で、全力で私を支えてくれているよね。

だって、毎日私のことを考えて栄養が沢山あって美味しいご飯を作ってくれているし、色々な所へ連れて行ってくれたり、たっくさんの愛情を注いでくれているもんね。

お母さんは

「母親として、当たり前のことをしていただけだよ。」

と言うけど、私は

（当たり前前のことを出来るだけでもすごいけど、こんなに幸せな日々は、決して当たり前では無いよね。）

いつも思っているよ。

そんな幸せな日の中でも、特にお母さんや家族に感謝したいことがあるんだ。

それは、私の夢を応援してくれること。

私が今頑張っていて、大好きなバレエを習わせてくれて、週に七回以上あるレッスンの送り迎えもしてくれて、本当に感謝しているよ。

さらに、一ヶ月の短期留学。

沢山お金がかかるのに、ドイツとカナダのバレエ学校に一ヶ月も行かせてくれたのは、本当にうれしかった。

海外では、毎日が充実していて、大好きなバレエを憧れの場所で踊ることが出来て、すっごく幸せだったし、勉強になって沢山の事を学ぶことが出来たよ。

私の今の目標は、来年から、カナダのバレエ学校に年間留学すること。

お母さんは私の目標を知った時、

「海外へ行きたいんなら、留学できるレベルになれるよう頑張らな。お母さん達は海外へ行かせてあげられるようにお仕事頑張るから、一緒に頑張ろう。」

と言ってくれたよね。

あの時私は、

（お母さんは私の目標を知って何て言うだろう？）と少し心配していたけど、「一緒に頑張ろう」と言ってくれて、飛び上がるほどうれしかったよ。

本当にありがとう。

いつか私は、海外で活躍するプロのバレエダンサーになって、お母さん達にその舞台を観に来てもらいたいんだ。

そして、私の踊りを観たお母さん達に、

(この子を育ててきて良かった。)

と思ってもらえるダンサーになれるよう、頑張るね。

これからも沢山迷惑をかけてしまうと思うけど、よろしくね。

私は、お母さんに生まれてきて本当に良かったと思っ
ているよ。

私にとってお母さんは、世界で一番のお母さんだよ。

私を産んで、育ててくれて、本当にありがとう。

お母さん、大好きだよ。

私を応援してくれて、ありがとう。

「天応の町」

呉市立天応学園 山崎 悠

僕が感謝を伝えたいのは、天応の町です。なぜなら今まで生きてきた十四年間、ずっと天応の町で暮らしてきましたし、天応の町に支えられ守られてきたからです。

僕は天応の町で特に海や川、山などの自然に感謝を伝えたいです。僕は、悩み事やつらい事ができると深く考えってしまう性格です。

たとえば学校でテストが返された時に悪い点数を取ってしまったたり、人間関係であまり良くないことが起きたりした時に、寝る前や下校中などに考え込んでしまいます。しかし、そのような時に僕は天応にある多くの自然を感じること、悩みなどの考え事をポジティブに考えることができ、心を落ちつかせることができました。最近では学校の帰り道の近くで流れている川の音を聞いたり、山の緑色を見たりして、冷静になってどうすれば良いのかを考えることができます。

また、朝起きて学校に行きたくないや、めんどくさいなと感じている時に自然を見たり、聞いたりして感じるこ

とで今日も一日頑張ろうと思うことができます。

次に僕が感謝を伝えたいのは、天応に住んでいる地域の人です。僕が今まで楽しく、元気に暮らしてこれたのは、周りの人の支えがあったからだと思います。

たとえば、僕が学校へ登校する時に、九年間ほぼ毎日、「おはようございます。」と挨拶をしてくれて、危険がないかを見守ってくれます。また、下校中も「おかえり」と言ってくれて心も体も温かくしてくれるからです。

他にも僕が小学生の二、三年生の時に初めて通る道で、どこを通れば目的地に着くのか分からずに迷子になっていた時に、近くにいた地域の人が、僕に声をかけてくれて、無事に目的地に着くことができました。もし、僕を地域の人が助けてくれなかったら、あのまま迷子になっていたかもしれません。本当にありがとうございます。

地域の人の助けがあつて今を生きることができます。感謝をしても感謝しきれません。

僕はこの天応の町がとても好きです。十四年間ずっと天応の町の自然や人に助けてもらい暮らしてきました。

これからもずっと、この町に感謝をし続けようと思いません。

「私を変えてくれた先生」

呉市立仁方中学校 沖本 侑瞳

中学二年生に進級し、担任が福田先生になりました。福田先生は私が所属している吹奏楽部の顧問でもあったので不安もなく、安心して学校生活を過ごす事ができました。

中学二年生から始まったデイリーライフで、私は何度も福田先生の言葉に勇気づけられました。元気がなかった時や悲しかった時、嬉しかった時、いつも優しく温かい言葉が書いてありました。

その中で、私は「素敵」という言葉が好きになりました。言う側も言われた側も心が気持ちよくなるからです。言葉の良さ、大切さがデイリーライフで先生とやりとりする度に実感できました。

デイリーライフだけではなく、日常生活でもクラスのみんなに「ありがとう」や「今日も一日頑張ろう」という言葉をかけられているのを見て、自分も思いを言葉で伝えようと思うようになりました。

他にも私は福田先生に助けられました。それは、体育大会の学年種目の練習の時と勉強です。

二年生の学年種目はムカデ競争で、私は先頭でした。運動が得意ではないため練習では何回もこけてしまい、足にはあざとすり傷がたくさんできました。心が折れそうになった時、速く、こけないようにするために福田先生がアドバイスをして下さいました。

縄を外して、肩に手を置いて声を出す事です。これを何回かくり返し、再び縄を結んで走ると、今まで練習した中で一番速くなりました。本番では、初めて勝ち、一位を得る事ができました。福田先生のアドバイスが無かったら、勝つ事ができなかったと思うのでとても感謝しています。

福田先生は、一学期の中でたくさん私の事を教えて下さいました。テスト勉強の仕方や礼儀など、自分のためになる事ばかりで、数学のワークで分からない所があれば、黒板を使って説明して下さいました。私は一年生の時、納得のいく点数を取れなかったため、二年生のテストが不安でした。それを先生に伝えると、私に寄り添って全力でサポートして下さいました。テスト前日に先生が、「侑瞳なら大丈夫。」

と言って下さった時、その言葉が私にとって何よりも大きな力になりました。結果は、納得がいく点数ではなかった

けれど、納得がいく努力はできたので後悔はしていません。

私は先生に出会えてとても幸せです。どんな時も寄り添い、言葉をかけ、人を笑顔にできる先生が大好きです。

そして、先生の言葉や行動で私は変わる事ができました。日常で友達に感謝を伝え、自分から行動できる人になるうという心掛けや、目標に向かって精一杯頑張ろうと思うようになりました。

これまでの出来事も最高の思い出にする事ができたのは、福田先生のおかげです。本当にありがとうございます。福田先生は私にとって大切な存在であり、世界で一人の素敵な女性です。

「見守ってくれて ありがとう」

呉市立仁方中学校 後藤 優明

「自分を信じる。仲間を信じる。先生方を信じる。俺を信じる。」

先生は試合前、緊張している私にいつも語りかけるように言ってくれる。

私は剣道を始めて今年で八年目だ。先生は約四年前、私が四年生の時に先生として来てくれて、そこから私の剣道はガラリと変わった。

まず先生は、私達に剣道の中の小さな目標、中ぐらいの目標、大きな目標を与えてくれた。小さな目標は呉市の大会で優勝。中ぐらいの目標は広島県の大会で優勝。大きな目標は、道場連盟の全国大会に出場することだ。

全国に出たいという気持ちはあったものの、力不足で叶はずはないし、夢の夢だと思っていたそのころの私にとっては、あまりイメージがつかなかった。でも、とにかく出場してみたいという思いは強く持っていた。パツとしていない私達に気がついた先生は、

「叶わなかったとしても、追いかけることにすごい意味あ

るんよ。絶対みんなで叶えようや。」

そう言ってくれた。はつきりとしていなかった目標までの道のりを先生が照らしてくれているようで、ワクワクしてきたことを覚えている。

(絶対みんな叶えるぞ。)

それから先生は、練習の中でも目標をたくさん口にしていった。稽古のキツさ、辛さから剣道をしている意味を見失いそうになった時も、試合で負けて泣きそうな時も、

「全国行くんじゃないや。先生もみんなと行きたいよ。諦めずにがんばろうや。」

そうしてがんばりが実り、先生を全国大会に連れて行くことができると決まった時は、嬉しくてしょうがなかった。

それもこれも先生が私達に目標を与えてくれた、やる気になれるようにサポートしてくれたおかげだと私は思う。

先生は挨拶、防具の置き方など、人間として当たり前のことを当たり前にすることの大切さも教えてくれた。挨拶は相手からのイメージそのまんま。小さいころは、誰かに言われても仲間のみんなが居ないと、自分で挨拶できなかつた。だけど挨拶は当たり前と知ってから勇気を出してできるようになったし、他の道場の先生との会話も増えて、

良いことがたくさんあることも改めて知れた。

こんな熱心に大切なことから当たり前のことまで伝えてくれた先生は、今年の十月に仕事の都合で他の県に移動することになった。

悲しいけど、私がこの道場で剣道できるのも残り一年。今年、先生を全国大会に連れて行くことができなかつた悔しさをバネに、結果を残して嬉しい報告ができるように努力しようと思う。

私の剣道をずっと近くでサポートしてくれた先生に改めて「ありがとう」を伝えたい。

努力賞

「当たり前前ではない日常」

呉市立広中央中学校 猪野 真矢

昨年の年末、父の脳に腫瘍が見つかった。病気の前兆はあったのだろうが、父は日々の忙しさの中で、なかなか病院に行けず腫瘍が大きくなり、とうとう耳が聞こえなくなってしまう。近くの病院では手術が難しいと言われ広島市内の病院で手術をすることになった。

通院や付き添いなどは母が全て一人でこなしていた。母は、仕事と家事に加え父の看護もあり、日に日に疲れ切っていた。帰りが遅くなる時に母は私に、「お米研いでおいて」とメモを残していた。

言われた通りお米を研いで炊飯スイッチを押した。しかし、炊き上がったご飯は、いつものフワフワとした柔らかさはなく、固くてパサパサしていた。「私ってご飯もまともに炊けないんだな」と情けない気持ちになった。

今まで私はお手伝いというお手伝いは、ほとんどしたことが無く、家事はほとんど母にしてもらい頼りっぱなしだった。私は満足に母の助けをすることもできないのだと実感した。また、洗濯物を取り込んで畳むのも、不慣れなせ

いか、やたら時間がかかる。これを毎日、母は一人でやっているんだと申し訳ない気持ちになった。

朝起きたら、朝食があり、お弁当が用意され、制服は洗濯されている。感謝などせず、それが当たり前だと思っていた。父の病気をきっかけに、この日常は当たり前ではないと考えさせられた。

父の容態も安定し無事退院することができた。父は家に帰って来ると、

「やっぱり我が家が一番いいな。」

と嬉しそうだった。久々に家族四人で食卓を囲むと、母はホッとしたのか、ご飯を食べながら涙をこぼしていた。

そして、

「みんなが健康で、普通に暮らせることが一番いいね。」と言った。

母は私達に弱音も吐かず必死に不安と戦っていたのだろう。脳の手術ということもあり、最悪な事態も考えていたようだが、子供達が不安にならないように、耐え続けていたことが後になってわかった。

毎日何気なく生活していても、いつ何があるかわからない。これからは、自分から進んで家事に参加し、助けられ

る側から助ける側になりたい。そして、母の負担を少しでも減らすことができたらと思う。

感謝の言葉を直接伝えるのは照れくさいので、この場を借りて、「ありがとう」を伝えたい。

「ありがとうを伝えたい」

呉市立広中央中学校 小濱 瞬

僕が「ありがとう」を伝えたい人は、阿賀のお祖母ちゃんです。

僕は広に住んでいるけれど、阿賀保育園に行きました。

それは、父方のお祖母ちゃんが阿賀保育園のすぐ近くに住んでいたからです。

母はその頃竹原まで仕事に行っていたので朝早く出るとし、父は郵便屋さんなのでこれも朝早いので、父が七時頃に僕を阿賀のお祖母ちゃんに預けてそのまま仕事に行っていたそうです。というより、お祖母ちゃんが阿賀保育園の近くに住んでいたから、母は短時間勤務を選ばずに、保育園の送り迎えをお祖母ちゃんに頼んで、七時前には竹原に向けて家を出発していたと聞きました。

眠ったままの僕はそのまま阿賀のお祖母ちゃんに預けられ。八時頃に起こされ、母が用意した朝食を食べさせてもらい、八時半ごろ保育園に行く。そして十六時半ごろ迎えに来てくれて、祖母の家に帰ってからはおやつを食べながらEテレを見ているうちに父が仕事から帰ってきて、父に

連れられて、広の家に帰るとい生活を送っていました。

しかし、僕はその頃のことをあまり覚えていません。少し覚えているのは、帰りの時に、暑い日は、お祖母ちゃんが日陰の多い道を選んでくれたことです。

今でもよく聞かされるのは、ある日、お祖母ちゃん家から帰りたくなかった僕を、無理矢理連れて帰る途中で、あまりに大泣きする僕に、キレた父が「そんなに祖母ちゃん家に行きたいなら一人で行け！」と途中で僕を車から降ろすと、僕は泣きながらお祖母ちゃん家に走っていったそうです。父は慌てて僕を追いかけて、捕まえ、もう一度お祖母ちゃん家に戻り、少し落ち着いてから家に帰った、とのことでした。何がそんなにイヤだったのか、全然覚えていません。

また、こんなこともあったそうです。父が休みの日に、僕を保育園まで連れて行ってくれたけど、お祖母ちゃんに連れてきてもらいたかった僕は、泣きながら「お祖母ちゃんじゃないと嫌だ」と訴え、困った父はお祖母ちゃん家に行き、改めて、僕はお祖母ちゃんと保育園に行った、という事です。

こんなふうに、保育園時代は阿賀のお祖母ちゃんにお世

話になりましたが、そんなお祖母ちゃんも認知症になってしまい、今では施設に入っています。でも僕のこととは父の次に覚えてくれてるらしいです。会うと必ず、「瞬は小学校三年生になったんか」と聞かれます。会っている間は何回も聞かれます。その度に「中学二年だよ。」と答え、「もうそんなに大きくなったんか。」と驚かれます。

お祖母ちゃん、本当にありがとう。

いつまでも元気で、長生きしてください。

「ネット内の友達」

呉市立広中央中学校 下垣内 笑蓮

親から、先生から、ネットは怖い危ないことに巻き込まれるなどと言われ、私の中ではネットはとても怖いところだと思っていました。

私が中学生になってから学校生活が大きく変わり、精神的に心が病んでしまったことがありました。

そんな時にたまたま流れてきた「オープンチャット」というのが目に止まり調べてみると、色々な種類のオープンチャットがあり、アニメ、ゲーム、絵、相談といったジャンルに分けられており、私は相談系のジャンルをタップしました。そこで私は初めてオープンチャットに入りました。

自己紹介のところを見ると、同級生からのいじめをされている人、持病がある人など自分が知らないだけで色々な人が辛い思いをしたり、中には私と似たような思いをしている人がいました。顔も知らない声も聞いたことがない実際に会ったこともない人に自分の悩みを話していいだろうかと思ひ、親に言われたことを思い出した。でもこの人達なら信用できそうと思ひ、思っていること、どうしたい

かなどを話し解決に導いてくれる、私もこの人達の悩みを聞いて救ってあげたい、そう思いました。

ネットは怖いところ悪い人がたくさんいるという思いだったのに実際はとてもいい友達ばかりでした。ただの液晶越しに会話をしているだけなのに本当の友達のように話せて、時々趣味の話をしたり一緒にゲームをしたりして、私はこの空間がとても大好きです。一人だと思っていた間に入ってくれて一人じゃないんだと感じました。

顔も見たことないけれど私にとっては大切な友達です。私が住んでいる所より離れているかもしれないけど、いつも近くにいてくれてくれるような気がします。ネットの友達だからこそ、現実でちゃんと向きあえたと思っています。

ネットは怖くて危ないところ、私がまだそういう人に出会っていないからかもしれないけど、私が出会った人はとても良い人でした。勝手に怖いと思っていた感情も今ではなくなり、もつと色々な人と出会ってみたいと思いました。

前の私では思いもしなかったことを今では思えるようになったのも、ネットの友達のおかげだと思っています。いつも相談とかくだらない話に付き合ってくれてありがとう。と本人に伝えたいです。

「憧れのお姉さん」

呉市立広中央中学校 新本 さくら

私には四歳の頃に出会ったお姉さんがいます。その日、お母さんのママさんバレーの試合があり、お姉ちゃんと私の二人でお母さんの応援に行きました。

ですが、当時お母さんがいないと泣き出してしまおう私は大泣きをせずと泣いていました。お姉ちゃんもどうしていいか分からず困っていると三人組のお姉さんが話しかけてくれました。

「どうしたの？お母さんがどこかに行ったの？」

優しく暖かい声で私とお姉ちゃんに声をかけてくれました。お姉ちゃんが事情を話すと、お姉さん達が私の座っている席の隣の席に座って、一緒にお母さん達を応援したり、私が持っていた絵本を読んでもくれました。当時のお姉さん達は中学生から高校生ぐらいのお姉さんで、まだ四歳だった私には大人のお姉さんに見えていました。

今、当時の自分を思い出すと泣き虫だなとか、お姉ちゃんを困らせて悪かったなと感じます。お姉さんのことを思い出すと、もし自分が同じ立場だったら泣いている小さな

女の子に優しく声をかけられるのだろうかと思いました。

「困っている人に声をかける」

それは当たり前のことだけれど、当たり前のことのように出来ることではないと自分は思っています。そして同時に、「困っている人に声をかける」

その行動は私の中で決めている、座右の銘のようなものになっています。お姉さんに出会ってからずっと私はお姉さんに憧れてきました。

そして、今年に入って、自分の将来の夢について考える授業がありました。私は小さな子にも優しく温かい声を掛けられる、お姉さんみたいになれるように、児童精神科医になることを決めました。今まで自分の長所や好きなこと、得意なことが自分でも理解していなかったけれど、お姉さんのことを思い出して将来の夢が決まりました。

だからお姉さんには、たくさんのありがとうを伝えたいです。

あの時、泣いている私に声をかけてくれてありがとう。おかげで当時の私は安心してお母さんの応援をすることができました。

そして、私に将来の夢をあたえてくれてありがとう。

私がお姉さんを憧れるように、私も誰かに憧れてもらえる、素敵なお姉さんになれるように、将来の夢に向かって頑張っていくます。お姉さんはずっと私の憧れのお姉さんです。

「感謝を胸に」

呉市立広中央中学校 橋爪 みやび

私は、年少の頃から柔道を始めた。そこからずっとお世話になっていて先生がいる。先生は怒ると怖い、面白い一面もある先生だ。

私が高学年になった頃から本格的に指導を受けている。中学校では柔道部がないため、先生の指導がたよりだ。

先生の娘はみんな柔道で全国大会に出場しており、とても強い。私は先生の娘達のように強くはないが、先生の指導のおかげで、少しずつ成果が出はじめている気がする。勝てなかった相手に勝てたこともあるし、先生方や先輩への話し方など、様々なことを教えてもらっている。

毎週末にはほかの中学校につれて行って練習させてもらったり、合宿につれていってもらったりしている。そのおかげもあり、他の中学校の人と仲良くなれ、より一層柔道が好きになった。これも先生のおかげだと強く思う。

私はほぼ毎日練習させてもらっている。週3回はトレーニングの日、週2回は通常の練習の日。土日は出げいや試合。

先生は、私達が強くなれるよう、仕事から帰ってきてすぐ練習にきてくれる。まるで我が子のように、一生懸命に教えてくれる。私は本当に先生に感謝している。

私は先生の娘のように強くなりたい。日々の練習に加え、毎朝のランニングを追加した。早く結果を残して、先生を全国大会に連れて行ってあげたいからだ。

目標を達成するために大切なことを2つ考えてみた。一つ目は、ただ練習をいっぱいやるだけではなく、強くなりた！強くなるんだ！という気持ちを持って練習にぞむこと。

二つ目は、一回一回の練習を全力でのぞむこと。この二つを心にとどめ、私は柔道に取り組んでいこうと思う。

そして結果を残して、一番お世話になった先生を全国大会に連れて行く。

「忘れることのない思い出」

呉市立広中央中学校 吉田 莉子

私が今、不安なく運動できるのは、すばらしい医療従事者がいるからだ。

中学二年の後半頃から、膝に大きな重心がかかると、膝の骨が抜けるような感覚や強い痛みが、何度も繰り返し起こるようになった。しだいに、動くことが怖くなった。

体育のバスケの時間に、またやってしまった。今回は、約三十分の強い痛みで動くことができなかった。また、しゃべるのも辛かった。何度か同じことは起きていたけど、今回のことをきっかけに、病院に行った。

そしてMRIで検査をしたところ、亜脱臼と診断された。亜脱臼とは、関節の骨が部分的にずれるということだ。私の場合、お皿を支えている骨が浅く、なりやすい体質とということが分かった。

お医者さんには、手術を勧められた。手術ということはあまり考えていなかったため、急な言葉にびっくりした。お母さんからは、「早めにしての方がいいと思うよ。不安でしょ？」と言われた。たしかに、手術をしないという選択

をしたら、不安定な膝を抱えて過ごすことになる。

だけど、やっぱり手術というものは怖い。手術をするということは、膝にメスが入り、傷が残るということだ。こんなことになるとは思ひもしなかったもので、決断するのに、涙が止まらなかった。

いろんな思いがあったけど、手術をする選択を選んだ。日常生活の上で、絶対に経験することのない経験を私はしたのだ。

手術と約三週間の入院生活で、感謝の気持ちが人一倍強く感じる事ができた。改めて、医療従事者は、すごいと私は思った。

医療法士の方々には優しくて「思い切って走れるようになる」という私の目標に、全力でサポートしてくださった。そして、思っていたよりも早く目標達成することができたのだ。

看護師さんは、どんな時でも優しく笑顔で対応してくださり、入院生活は思っていたよりも嫌なものではなかった。私は、入院生活で一番うれしかったことがある。

ある日、歩けるようになった姿で病室に戻ると、一人の看護師さんが「歩いてる!!良かったね」と言ってくれた。

その後も少し会話をして、最後にもう一回、次は涙を流し「良かったね」と伝えてくれた。とても印象に残っていて、心が温かい気持ちになった。

手術してくださいだった先生とオペ看護師さんには、感謝しかないと思っている。とても優しい先生で忙しい中でも週二回は様子を見に来てくださった。オペ看護師さんは、とても心強かった。少しでも不安や怖さを和らげようとしてくれた姿が、かっこいいと感じた。

私は、この経験から、たくさんの方の優しさを感じたと
思う。

そして、忘れることのない思い出となった。

最後に、医療従事者の方々、本当にありがとうございました。

「憧れの人」

呉市立吉浦中学校 坂下 千穂

私は、五歳の頃から児童養護施設におり、今もそこで毎日のんびりと暮らしています。のんびりといいますが、たまに、職員に少し強い口調であたってしまうこともあります。でも、落ち着いて、自分の動きを振り返ってからの私は早いのです。まず、自分の悪かったところ、次に、相手に思うこと、最後に、今後どうするか、またはどうしたいかをいいます。

私は、これができることが自分の一つの長所だと思っています。ですが私は、長所は一人ではつくることができないと思っています。だから、私にも、つくるきっかけをくれた人がいます。

その人がいたのは、ちょうど五年前のこの時期です。私は、そのころ心に落ち着きがなく、イライラすると、すぐに物や人に当たってしまう人でした。

私は小学四年生で、ホームには、私より年上の中学生や高校生しかいません。なので、うるさすぎると注意されていました。

でも、そのたんびに、五分前まで暴言を吐かれていた私を、その人が守ってくれました。

「ごめんね。気づかなくて。痛かったよね。苦しかったよね。」と言いながら。

私は、その人のことが大好きでした。だから一緒に出かけたり、遊んだり、料理だっりました。けどどうしても自分がイライラする時は、相手の気持ちを考えることなんてできませんでした。

そうこうしているうちに私は五年生になり、その人は退職してしまいました。最後に、ごめんなさいもありがどうも言えなかった私。とても後悔しています。ごめんなさいくらい言いたかったな、言い合っている間にどんだけのお話ができただろうと。

私は、いつかその人が暴れる私を抑えながら言った言葉を覚えています。それは、

「この状況で一番苦しいの、誰かわかる？千穂ちゃんだよ。全部分かっててするのが、一番つらいから。」です。

これは、その人が自分の痛み、つらさなんかどうでもいいから、この子を解放してあげたいという、必死な思いで言った言葉です。

私は、いつか、こんな思いでこんな言葉を言えるような人になりたいと思い、今、それを目標にがんばっています。そして、それが自分の一つの長所につながったんだと思います。

これからもこの目標に向かって、がんばっていききたいと思いました。

先生、ありがとうございました。

「今も昔も変わらない優しいあなたへ」

呉市立吉浦中学校 毛利 滯

人間関係って、とても面倒くさい。

相手との距離感を考えたり、一緒にいて疲れる相手ではないかとか、自分の考え方と違う人もいるし、不満や文句ばかり言う人も嫌だ。私はきつとみんなから、真面目で近寄りがない人間だと思われている。

でもそんな事を気にしていても仕方がないから考える事をやめた。私は私のままで良い。自分の思いを押し殺してまで人に合わせようとする、自分が自分でなくなるから。

そんなふうにいる私に、中学一年生の時、初めて親友と呼べる女の子の友だちができた。彼女は気が強くて、思った事をはっきりと言える、関西弁のいわゆる陽キャ。私とはまるでタイプが違った。けれど、考え方が一緒だったり共通点も多く、すぐに仲良くなった。

彼女はいつも私の左側に来ては腕を組み、いつでもどこでも一緒にいた。私は初めて女の子の友だちの前で、ありのままの自分を出す事ができた。彼女とはずっと一緒にい

たかったけれど、出会って二年後の春休みに、彼女はまた遠くに転校する事になった。

私は淋しいとか悲しいとか心配させるような感情を出さずに、いつも笑っていたつもりだけれど、あなたは気付いていたんだね。

彼女がいなくなった次の日、いつも彼女が腕を組んでいた私の左側はガラ空きで、淋しさで喉の奥がキュツと閉まった時、あなたの低くて優しい

「おはよ。」

という声が聞こえた。

そこにはいつもと変わらない笑顔のあなたがいて、淋しさで潰れそうになっていた心がじんわり温かくなった。

その次の日も、またその次の日も、あなたは毎朝、私に挨拶をしに来てくれた。なぐさめるような言葉は言わないけれど、あなたはあの日から自然と私の左側にいてくれる。しようもない面白い話をしてくれる。一緒に好きな歌を口ずさんでくれる。学校を休んだ時には心配してくれる。私が一人でいる時は声をかけに来てくれる。

幼い頃から照れ屋さんでいつもクールなあなただけど、一緒にいるとその優しさはいつもストレートにしつかりと

伝わってくる。

友だち想いで、負けず嫌いで、頑張り屋さんのあなただから、一緒にいると私も優しく強くなれるし何でもうまくいくような気がする。

あなたは

「自分は何もしてないよ。」

なんて笑うけれど、今も昔も変わらないあなたの思いやりと優しさで、私は何度も助けてもらっている。

もう十二年間一緒にいるけれど、いつも支えてくれて、ありがとう。

半年後には別々の道に進む事になるけれど、どこにいても、私はずっとあなたを応援してる。

これからも、その思いやりと優しさで、たくさんの人の心を温かくしてあげてね。

「ありがとう 先生」

竹原市立竹原中学校 岡本 風雅

僕には、小さい時からお世話になっている耳鼻科の病院の先生がいます。僕が感謝を伝えたい人です。

僕はアレルギー性鼻炎で、小さい時からよく蓄膿症になります。最近では、これらの症状が悪化すると気管支炎にもなったりします。そうになると、僕は夜も眠れなくてイライラしたり、親に当たったりしてしまいます。僕もそんな自分が嫌になってしまいうけれど、アレルギーの症状が本当にしんどいです。

耳鼻科の病院に行き、名前を呼ばれ診察室に入ると先生はいつも、「風雅、今日は、どしたんか。」と言ってくれます。

今だから、自分の症状を先生に伝えることができますが、小さい時は自分の症状を上手く伝えることができず、お母さんが伝えてくれていたので、先生に「自分のことは自分で言えるようになれ。」とよく言われました。僕はそんな先生が少し怖かった時もありました。

けれど、僕が子ども園の年長の時におばあちゃんが亡く

なり、その数日後に予防接種を打たなくてはならなかった時がありました。だけど僕は注射を打つのが嫌で待合室でふてくされていました。僕はおばあちゃんが亡くなってから毎日夜になると泣いていました。おそらく気持ちが不安定だったんだと思います。その日は、先生が待合室まで僕を迎えに来てくれました。

「風雅が小学校六年生になるまで、わたしはこの病院をやめないから、風雅も頑張れ。」と言ってくれました。そして僕は注射を打つ覚悟ができました。

先生は僕のおばあちゃんのことを知っていたので、僕の気持ちを分かってくれていたのだと思います。そんな先生の優しさが、今となると、とても温かくなります。

僕は先生が処方してくれる薬でなければ、何故かわからないけれど、効きません。だから、片道一時間かかって、冬になると待ち時間が二時間かかって、僕は先生に診察してもらいたいです。

最近先生は、「腰が痛い」と言っているので心配です。僕は今、中学一年生になったけれど、先生は病院をやめずに続けてくれています。僕の悩みの相談ものつてくれます。時々きついことも言われたり、心配もしてくれます。それ

も僕への優しさだと思えます。面と向かって僕の素直な気持ちは先生には言いにくいけど、

「先生との付き合いは十三年目に突入しました。」

「これからも宜しくお願いします。」

「いつもありがとうございます。」

「いつまでも元気でいて下さい。」

「夢の国の案内人」

広島県立広島中学校 岡野 愛結

「夢の国」と呼ばれるデイズニーランドには、ゲストを本当に夢の国へと招待してくれる「キャスト」さんが存在しています。私はそんなデイズニーのキャストさんに憧れており、感謝を伝えたいと思っています。

私が初めてデイズニーランド、デイズニーシーを訪れたのは、八歳のときでした。当時（今も）の私にとって、デイズニーは本当の夢の世界のような存在でした。たくさんアトラクションに乗ったり、キャラクター達がショーを行ったり、日々の辛さを吹き飛ばす魔法のような、そんな場所に行けることが夢のように思えて、前日は中々夜も寝ることができなかつたくらいです。

そして、ついに念願のデイズニーへ行けた時、一瞬夢と現実の区別がつかなくなりりましたが、これは現実だと思うと興奮が止まりませんでした。

そうやってデイズニーランドを満喫し、二日目はデイズニーシーを訪れました。私達家族は初めに、「ソアリン」というアトラクションに乗りました。今では大人気アトラク

ションですが、当時はまだオープンから一週間しか経っておらず、乗れることをずっと前から待ち望んでいました。ソアリンに乗ったときは夢の世界に入り込んでいましたが、その後は現実に一瞬で突き落とされることになりました。

私が携帯用扇風機を忘れたことに気付いたのは一時間くらい経った後でした。暑いと思い普通にバックから取り出そうとした時に、無くしていたことに気付きました。もちろん親にはこっぴどく叱られ、自分のせいでアトラクションが止まっていないう不安で押し潰され、気がついたらその場で泣いていました。顔もグシャグシャで、もう夢の国にいるような顔ではありませんでした。

そんな時、手を差し伸べてくれたのは、あのキャストさんでした。確か若い男性だったと思いますが、本当に神対応だったのを覚えています。扇風機を無くして号泣していたとき、キャストさんはすぐに必死で探してくれました。そして見つかった時は、笑顔で渡して「これからも楽しんでね」と言ってくれました。その時、再び夢の世界に入れたような気がします。あの時キャストさんが丁寧な対応をしてくださっていなければ、私はその後の時間を楽しめなかつたと思います。人への思いやりがどれだけ大切なのかを

教えてくれたキャストさんには本当に感謝しかありません。
このような出会いがあつて、キャストさんを憧れるようになり
ました。

今、ディズニーで働きたいと思うことはありませんが、
以前キャストさんが接してくれたように、自分も周りの人
に気を配れるような人間になりたいと、強く心に決めてい
ます。

「医療と感謝」

広島県立広島中学校 鳥井 暖果

現在、かつて治療が困難だったり、膨大な数の死者を出すなどして、不治の病とおそれられた病気も、医学の進歩により、治療法が確立されています。また、近年は医療AIを導入し、主に画像診断や問診に使用されています。医療AIの導入が行われる中、AIと医療の活用方法を考える必要があると思います。

以前、私の祖父が夜、家で急に動けなくなり、救急車で病院へ運ばれました。祖父は以前、肺の手術などをしており、家族は命に関わることなのか、とても不安な状況でした。ですが、夜の診察時間外にもかかわらず、看護師の方々、医師の方々がすぐに対応してくださいました。診察や検査を終え、肺炎だとわかり、入院することになりました。私は、次の日に家族からそのことを聞きました。

入院後は医師の方が朝と夜に祖父の状態や治療方針を連絡してください、私たち家族は少し安心できました。祖父が入院している間、私は夏休みだったので毎日面会に行きました。その後祖父は無事に回復して退院することがで

きました。また、退院時、担当医の方は別の病院へ転勤が決まってお休みだったにもかかわらず、祖父の退院に合わせて病院へ来てくださりました。

この出来事を通して、医師の方や看護師の方々が私たち家族の気持ちを考えて行動をしてくださっていたことに感謝しています。

医療AIは多くのデータから正確な検査結果やそれに基づく治療方法を導き出すことはできますが、医療で一番大切なことは、患者や家族の気持ちを考えながら治療していくことだと思います。

社会生活も同様で、私は人の気持ちを考えて行動することが言葉で表すと「ありがとう」ということにつながるのだと思います。「ありがとう」は本来、「有ること」が「難しい」という意味を持っており、滅多にないことや貴重であることを指します。

日頃の生活で当たり前とと思っていることの多くが、誰かに支えられています。日頃から感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」の言葉で表すことで、相手も自分も幸せにできると思います。

努力賞

「普段はいえないありがとう」

広島県立広島中学校 中村 奏太

僕が、感謝の気持ちを伝えたいのは、電車の運行にたずさわる全ての人です。なぜなら、いつも電車が安全運行するために、全力を尽くしてくれるからです。僕は、今まであまり、そういう人たちに感謝をせずに電車を利用していました。しかし、改めて電車の運行にたずさわる人に感謝をしないといけないと思った経験があります。

それは、昨年十月にありました。雨によって、利用する路線が運転見合わせになって、家に帰れなくなりました。そのときに、今の状況を駅員さんが駅の利用者に対してずっとアナウンスをして伝えていました。そのときに、僕はハッとしました。今まで、当たり前前に電車を利用してきただけ、それは当たり前ではなくて、駅員さんを含め電車の運行にたずさわる全ての人々の努力のおかげだということに気付かされました。

このことがあってからは、毎日電車の運行にたずさわる人に感謝をしながら電車に乗っています。また、電車だけでなく、してもらってうれしかったことや手伝ってもらっ

たことに対して、ありがとうと言うことも心掛けています。すると前よりも助けてもらったたり、話しかけられることが多くなったように感じました。

そのとき、僕はありがとうには、他人と自分の距離を縮めることができる言葉だと思いました。また、それだけでなく、ありがとうには人をうれしくさせる、最も簡単な言葉だということも分かりました。

僕が、今まで生きてきた中で、助けてもらったことや、してもらってうれしかったことは、山のようにあります。それでも、僕が言ったありがとうの数は、してもらってうれしかったことや、助けてもらったことの数よりも少ないと思います。

僕には、これからもありがとうを言う機会があります。この機会を逃さずに一つ一つありがとうを言いたいです。自分が言ったありがとうの数が、してもらってうれしかったことや、助けてもらったことの数を上回るように努力したいです。そして、電車の運行にたずさわる全ての人に、普段は言えない、ありがとうを伝えたいです。

「努力家の兄へ」

広島市立矢野中学校 朝枝 達哉

私には四歳上の兄がいる。大きな声でよく笑うおもしろくて愉快的兄だ。兄がいるとその場の雰囲気明るくなり楽しくなる。みんながよく笑い、おしゃべりになるのだ。親戚の集まりになると兄は輝いている。兄自身もたくさんの方が集まる場が好きなのだ。人前で話をするのもすらすらと上手に言える。

しかし、私はそんな兄とは正反対で、たくさんの方が集まる場が好きではなく、人前で話をするのも苦手だ。だからそんな兄を羨ましく思う時もあれば、うるさく思う時もある。

また、兄の立場を利用して面倒な仕事もお願いしてくる。この夏二人で育てている野菜の水やり当番は、兄の順番のはずなのに何回も私がやってきた。朝と夕方の二回も水やりをするのは暑くて大変だ。

それでも、野菜が育って大きくなると一緒に喜んで収穫する。きゅうりを冷やして丸かじりをしたり、兄がトマトとピーマンでピザを作ってくれたりした。とてもおいしか

った。兄は料理も上手なのだ。

カツ丼や牛丼もおいしいが、ヨーグルト入りのホットケーキは最高だ。公園でキャッチボールをするのも楽しい。一緒にいると元気になる。また、勉強もよく教えてもらう。

私に分からなくて困っている問題があると、理解できるまで教えてくれる。テスト前になると、夜遅くまで起きて一緒に勉強をする。いつも私を応援してくれて、頑張る気持ちを一歩いっばいもらった。

そんな兄は今、自分の将来に向かって猛勉強中だ。兄の姿を見ていて思い出したことがある。なんでも出来るように見えるけれど、そういえば、どんなことも一生懸命努力していたことを思い出した。

人前で話をする時も、原稿を書いて紙を見ないで言えるようになるまで覚えていた。緊張する歌のテストや笛のテストも何回も練習していた。そして、よく勉強をしていた。兄は、

「一生懸命練習をしていると、自分が積み重ねてきた努力が自信につながって、あまり緊張しなくなるよ。あとはその場の度胸かな。」

と私によく言っていた。

私も兄を見習って、どんなことも一生懸命努力をする人になりたいと思った。そして、兄のように私も自分の将来をしっかりと考えていきたいと思った。

しかし、いつの日か兄がこの家を出ていくことを考えると寂しくなった。大人になるということは、今のままではいられなくなるのだと思うと悲しくなった。それでも私は兄の夢が叶うことを願っている。

そんな兄に

「いつも僕を応援してくれてありがとう。僕もお兄ちゃんを応援しているよ。」と伝えたい。

「ありがとうの手紙」

広島市立矢野中学校 上田 航平

僕がありがとうと言いたい人はいっぱいいます。僕は友達や家族のみんな、まわりの大人等多くの人に支えられています。ありがとうございますと言いたいのは、母です。

僕の母は特別養護老人ホームで看護師をして働いています。特別養護老人ホームとは、常に介護を必要とし、自分の家での生活が難しいお年寄りに対して、生活全般の介護を行う施設です。

母は休みも不規則で、毎日朝早くから仕事に出かけ、夜遅くまでお年寄りの方々に寄り添い日々の生活を支え安心して過ごせるようにお話を聞いたりしています。僕の母は笑顔も声も優しいので、きっとお年寄りの方々も安心されると思うし、いつも遅くまで働いて、心のこもった介護がお年寄りの方々の生活を支えていると思います。多分、お年寄りの方々や職場の方にとって、母はただの職員ではなく、大切な存在だと思います。

このことはお年寄りの方々等だけではなく、僕達家族に

とっても同じです。母はどんなに疲れていても、おいしいご飯を作ってくれて、いつも笑顔で接してくれます。

僕が病気になった時も、仕事を休んでくれて看病してくれました。僕が勉強でつまずいた時も、分かるまで何度も教えてくれました。今までできなかったことができるようになるたびに、自分のことのように喜んでくれます。また悩んだ時や困った時もいつでも励ましの言葉をかけてくれました。そのおかげで僕は自信をもって前に進むことができました。

ただ、僕が小さい時、母はいつも夜遅くて、正直寂しく思っていたこともありました。母が仕事で大変なのは、何となく分かっていましたが、もつと一緒にいてほしいと思っていました。

僕は日常の生活の中で周りの人に支えられ生活しています。このことをいつも忘れないようにしたいと思います。最後に、普段は照れくさくて言えないけど、

「お母さん、本当にありがとう。」

僕はお母さんのように優しい人になれるよう努力していきます。

「引っこす友達へ」

広島市立矢野中学校 大村 彩里沙

私には、大親友がいます。その大親友は、お父さんの仕事の関係で海外へ行ってしまいます。初めて聞いた時は、あまり実感がわかなくて、驚きの気持ちの方が大きかったです。だけど、時間が経つにつれ、悲しくて、さびしくて、不安な気持ちが大親友が大きくなりました。

大親友とは、小学三年生に出会い、恐竜好きという共通点がきっかけで、仲良くなりました。遊んでいくにつれて、どんどん仲良くなっていきました。とても気が合うし、一緒にいて楽しく、安心できます。かわいくて、優しく、おもしろくて笑顔にしてくれる所が大好きです。

親友の存在の大きさを感じたのは、四年生の時に、よくお腹が痛くなり、学校に行けない時があった時のことです。毎週月曜日に遊びに誘ってくれていたことで、月曜日が楽しみで、大きな心の支えになりました。

そして、親友の家族も楽しい場所へ連れてってくれたり、お昼ご飯と一緒に食べてくれたり、優しく、喜んで迎え入れてくれて、楽しく、安心して遊ぶことができました。

私は、大親友が海外へ行った後、学校や部活がつまらなくなるのかなと思います。でも、仕方がないことだし、あまり考えないようにしています。

大親友は、二年後の九月に戻ってくる予定です。大親友は、楽しみの方が大きいと言っていたので、応援したいです。私も、大親友が帰ってくる日まで頑張って待っていたと思います

いつも一緒にいてくれてありがとう。楽しくしてくれてありがとう。仲良くしてくれてありがとう。遊んでくれてありがとう。話してくれてありがとう。

帰ってきたら、またいっぱい遊んで話して、勉強も頑張ろうね。

私たちのことを忘れず、楽しく元気に頑張ってね。

私と友達になってくれてありがとう。
残り少ない時間だけど、楽しく、大切に過ごそうね。

「ママ心配してくれてありがとう」

広島市立矢野中学校 上中 心都

野活から帰ってきて、なんか熱出して。近くの病院行ってインフルでもコロナでも、なんでもなかったのにどんどん熱上がって四十度出して、県病院行って検査して広島大学病院に入院ってなって。色々あったよね。

今は、広島大学病院でいろんな人が私の病気を治すために頑張ってくれて、いろんな人がお見舞いに来てくれたり、ラインしてくれたり心配してくれてる。

お姉ちゃんは帰っていいってなったら、サプライズで帰ってきてくれるし、夜おへその下がものすごい痛くて、ママはこん談で佐賀に行かないといけない時は、パパが会社を休んで来てくれて。最高の家族がいて、最高の身内がいて、最高の友達がいて。私って本当に愛されているなって思えたよ。

でも、やっぱり私は今一番ママにありがとうって言いたい。最初は違ってたけど。だってすぐに泣くんどもん。入院した時は特に。私を心配して泣いていることを知ってるから心配させたくなくて、ただ泣きたくても不安でも

泣かないように笑ってた。それがすごく辛かった。だから一人になりたかった。

先生に退院まで二ヶ月は絶対かかるって言われて、パパの前で泣いた。二ヶ月もかかるなら院内学級にも行かないといけなくなるって。怖かった。そしたらパパが、私が泣いたことをママに言った。それを聞いてママも泣いた。だから一人でしか泣けなくなった。一回一人になりたい。夜は寝られないかもしれないし、一人でずっと泣いているかもしれないけど、なんかそっちの方が楽な気がしてきた。

でも、それをママに言っても帰らない。私がいないと心配して、どうせ寝られないからって帰らない。だからどうしようってお姉ちゃんにも相談した。お姉ちゃんは私の考えを理解してくれた。だから最高の家族。

でも、また熱を出して私がしんどがっていた時にママがこうやって言ってくれたのを覚えている？

「一緒に頑張ろう。」

って。その言葉が私はすごく嬉しかったんだよね。今までは、一人でどうにかしないと。自分の病気だから自分で治さないとって思ってた。それを、

「一緒に頑張ろう。近くで支えていることしかできないけ

ど、一緒に頑張ろう。」
って言ってくれたママには、ありがとうとしか言いようがないよ。

その時ママと私で一緒に大泣きをしたよね？あれがママの前で初めて大泣きした時かな？ちよっと泣いたことはあったけどあんなに泣いたことはなかった気がする。一緒に頑張ってくれるなら一緒に大泣きしたっていい。そう思えるようになって今までは一緒に泣いてくれるママの存在がどんなに大切かわかってきたよ。だから、私が泣いた時は一緒に泣こう！そっちの方が今は楽になってきた。

パパはポジティブすぎてついていけないくなる時あるし、ポジティブに考えられなくなった時は、ネガティブなママと一緒に泣いてね。あの言葉で、私はこわれなかったって言うのもいいと思う。

本当にママのおかげだよ。ありがとう。

「天国からの希望」

広島市立矢野中学校 小林 美結

私には、一緒に住んでいた、おばあちゃんがいました。

昔は一緒に出かけたり、遊んだりしていました。そして

私は、おばあちゃんと一緒にお風呂に入って髪をかかわし

てもらうのが日課で、それが大好きでした。

おばあちゃんには、お母さんやお父さん、お姉ちゃん、

先生にも言えないことを相談することができました。その

度に「みゆちゃん元気出して。大丈夫だよ。」とやさしい

声ではげましてくれました。

私はそんなおばあちゃんが大好きでした。でもそのとき

おばあちゃんはもう七十四歳ほどでした。

そして私が小学三年生のときにおばあちゃんは認知症に

なりました。家族の名前は覚えてくれていたのでよかったです。

しかし、今まで遊んだこと、話したこと、お出かけ

したことを覚えていないということを知ったときはとても

悲しかったし、もう一緒に昔の話ができないのがとても悔

しかったです。毎日朝学校に行くときに、おばあちゃんの

部屋に行って「行ってきます。」と言っていました。

そうすると昔のことを思い出してくれるのではないか

という希望を持っていたからです。

しかし、日に日に家族の名前を忘れていってしまいまし

たが、なぜだか今までおばあちゃんが飼っていた動物の名

前はすべて覚えていました。

また、私が四年生になったばかりのころ学校でいろいろ

なことがあったときおばあちゃんに相談したとき「みゆち

ちゃん、元気出して。大丈夫だよ。」といつも相談していた

ときと同じ言葉をかけてくれました。今思えばそれは希望

が叶っていたのかなと思います。

そんなやさしいおばあちゃんなのに私は、何もかも忘れ

ているおばあちゃんに腹が立って強くあたっていました。

毎日朝言っていた「行ってきます。」も言わなくなり、部

屋を少し見るだけになっていました。

そしていつものように朝少し顔を見て学校に行きまし

た。帰って来ると知らない人が家にいました。そして何か

嫌な予感がしました。知らない人が帰った後、おばあちゃ

んの部屋に行くとき顔に白い布がかけておられました。お葬

式をするとき悲しみと、もっとやさしくしておけばよかつ

た、もっと話しておけばよかったという後悔があり、泣くことはできませんでした。

それから何か悩むことがあったらおばあちゃんの仏壇の前で話していました。そうするとおばあちゃんが天国からはげましてくれそうな気がしたからです。

六年生のとき本当に悩んでいておばあちゃんの仏壇の前で泣きながら話すと「みゆちゃん、元気出して。大丈夫だよ」という声が本当に聞こえてきたような気がしました。

いつも悩んでいるときにやさしくはげましてくれたおばあちゃんに、私は「ありがとう」と言いたいです。

「大切な五文字」

広島市立矢野中学校 外田 美波

私の一番好きであこがれている人はお姉ちゃんです。なぜなら今一番私の感謝したい人だから。

お姉ちゃんは、休日よくオムライスを作ってくれました。私はいつもあきたと文句ばかり言っていたけど、お姉ちゃんが一人暮らしを始めてから、なんだかまた食べたいと思うようになりました。なんとなく、ありがとうって言うっておけば良かったとも思います。

姉はまだ家にいる時、私のお母さんみたいな役割をしていました。家事も全部やってくれていたし、私の一番頼れる人でした。私が悪いことをした時、怒ってくれたのも、私が悲しい時、元気づけてくれたのも姉です。会って言うのは恥ずかしいから、作文でしか書けないけど、ありがとう。

先日、姉とコンビニに行った時、私は店員にお礼を言いました。それを聞いていた姉は、

「店員さんにお礼言うようになったん？」

と私に言いました、その時私は強がって

「当たり前でしょ。」

としか言えなかったけど、実は姉がやってたから真似しただけなんです。「いただきます」、「ごちそうさま」、「ごめん」、「ありがとう」。これらが当たり前前には言えるようになったのは全部姉のおかげなんです。

人間関係に悩んでいる私に、これさえ言えばなんとかなると教えてくれた五文字の言葉。ありがとうは、魔法みたいな言葉。

今考えてみれば、姉は私にいろいろなことを教えてくれました。ご飯の作り方も、かわいい服も、おもしろいことも、お金の使い方もあやまり方も、つらいときのにげ方やめいっばい楽しめる方法。苦手な食べ物を感ぜずに食べられる方法も、勉強のやり方も、私にたくさん与えてくれました。

そんな姉に私はすっかりありがとうと言えないけど、何かちゃんと、どれだけ恥ずかしくても言いたい言葉です。

まだ少し言えそうにないけど、私に大切な言葉をたくさんくれたから言いたい。

私の家族の中で一番好きで感謝したい人は、私の事を
だれよりも知っていて、ありがとうを教えてくれて、少し
悪い。でも私を救ってくれる言葉をたくさんくれた、とて
もいい姉です。これからもよろしく。

でも今一番言いたいのは大切な五文字。

「ありがとう」なんです。

「周りから好かれる「ありがとう」

広島市立矢野中学校 田中 里桜

私は友達から、「ありがとう」の大切さを教えてもらいました。

私の友達はとても可愛くて頭も良くて、たくさんの人から好かれています。私はその子が周りから好かれているのは容姿や頭が良いからだと思っていました。ですが、私はいくら容姿や頭が良くても周りから嫌われる人もいることに気付きました。そのことに気付いてから、私は少し友達の「言動」や「性格」を研究してみることにしました。

研究を続けて少したった時、私は、私の友達にかかわらず、周りから好かれている人達は必ずと言っていいほど、明るく笑顔で元気良く、「ありがとう」と言っていることに気付きました。私は特別容姿が良いわけではないし、頭も良いわけでもないから、周りの人から好かれるにはどうすればいいんだろうと悩んでいたけれど、実際は容姿や頭の良さはあまり関係なくて、「ありがとう」の一言や、にじみ出てくる人の良さが周りの人から好かれる秘訣だということが分かりました。

それから私は、「ありがとう」の一言と言い方を大切にすることを心がけています。例えば前に座っている子からプリントを受け取った時や、誰かが物をひろってくれた時、授業後の号令など、誰かが私に何かをしてくれた時です。私は必ず「ありがとう」を言うようにしています。

でも「ありがとう」は自分には言っていないというルールはありません。なので、私は今の自分から、過去の自分に向かって「ありがとう」と伝えたいです。

私は前までどうしたら周りから好かれるのかな。とか、嫌われないように。などの周りの評価ばかり気にして、明るく自分の好きなように学校生活を送っていなかったけれど、「ありがとう」の一言だけ気を付けて、後は明るく自分らしく過ごすだけで、ウジウジしていた時よりも周りの人から好かれるようになったと思います。

私は、「ありがとう」の大切さに直接教えてくれたわけではないけれど、気付かせてくれた友達や、一所懸命研究をして自分で答えにたどりついていてくれた自分に、心から「ありがとう」を伝えたいです。

ありがとう。

「作文になったけど」

広島市立矢野中学校 三好 結愛

私は今1番「ありがとう」と伝えたい人がいます。それは、硬筆、習字の先生です。

私は小学校5年生の後期にとっても字がきたなく、自分では読めるけど他の人は「何をかいているのか読みづらい。」と言われてしまい、母に勧められて硬筆と習字を習い始めました。

硬筆と習字を習い始めると、他の習っている年下のの子字を見ると、とてもきれいで驚きました。お手本をしつかりまねして字をかくのが、自分にとって難しかったのですが、先生がアドバイスをしてくれたおかげで、上手くかけるようになりました。

年に1度、作品展という自分で書きたい字を決めて書くことがあります。1年目は硬筆、2、3年目では習字で自分の書きたい字を決めて書きました。硬筆では、母達が上手いと言ってくれたのですが、3年目の習字では、母に「もう少しかくばった字ではなく流れて書いた方がいい。」

と言われ、とてもショックを受けました。

先生にそれを言うと「先生は上手くできたと思うよ。」とニコニコの笑顔で言ってくれました。そのあと先生が、「次の作品展ではお母さんに驚いてもらおう！」と言ってくれて、私は母に驚いてもらうため習字を頑張っています。

私の先生は、私が友達と話していると「おもしろいね！」や「何があつたん？」など聞いてくれて、それに私が話すと、しっかり聞いてくれるし、相談したときには解決策を教えてくれるのでとても嬉しいです。

作文になったんですが、私は先生に本当に感謝しています。

先生、小学校5年生のころは読めないくらいにきたなかつた字が、ここまできれいに書けるようになりました。それは、先生のおかげです。また、アドバイスをしてくれたり、「何があつたん？」や「おもしろいね！」など聞いてくれて相談があるとしつかり聞いてくれて解決策まで教えてくれる先生が私は大好きです。

まだ、字がきれいでも習字があまりきれいでないので、これからも、宜しく願います。

「当たり前前のように感じていた日々」

広島市立矢野中学校 宗政 宙希

今、私が一番「ありがとう」を伝えたい人は、お母さんです。

私は新体操を習っています。お母さんはいつも送迎をしてくれます。朝からの練習で早いときも、練習が夜まであって遅いときも、変わらず「お疲れさま」と言って送迎をしてくれています。練習で上手くいかなくて落ち込んだり、イライラしたりしている時は、必ず話を聞いてくれます。

そんな日々が私にとっては日常で、当たり前前のような日々となっているけれど、普通は当たり前前ではない。だからこそ、もっと感謝しないとけない、と感じています。

ある日の練習で、私は泣いてしまいました。ずっとやっている技なのに、何回やっても出来ない、成功しないことがある、出来ない自分が悔しくて、情けなくて、泣いてしまいました。そんな時に、お母さんは「どうした？」と優しく声をかけてくれました。出来事を話すと、お母さんは「宙希ならできる。お母さんは知ってる、宙希が何回もやっ

と、言ってくれました。それを聞き、ほっとして心が落ちて、着いて、「また頑張ろう」と思えました。

ある日の試合の前の練習、私は腹痛などで調子が悪くなり、その日の練習を休みました。試合当日、一日練習しなかっただけで、演技にとっても不安がありました。結果は、予選突破ならず、とても悔しくなりました。ここから、私は新体操の楽しさやおどれることのおもしろさを思い出せなくなり、練習に行きたくなりませんでした。そんな時お母さんは、

「どんなに悔しくても、もう試合は終わったんだよ。本当はお母さんもとてもしらなくていいけれど、切りかえなきゃいけないんだよ。宙希のできるところまでできたなら、それでいいんだよ。これからも頑張れ。」

と少し怖く、でも少し優しく言ってくれました。その言葉を聞き、「そうだな」と思い、少しずつ切りかえていけました。

私は日頃から、感謝の気持ちを伝えきれていません。だけど、そのことについて何もふれず、当たり前前のように送迎などをしてくれるお母さんは、本当にすごいと思うし、尊敬しています。私もお母さんのように誰にでもいつも優

しく、時には少し怖い、お母さんのような人になりたいです。これからでもできるところまでは新体操を楽しんで、頑張ってください。

「私を新体操に出会わせてくれてありがとう。今までたくさんのおつかいことや大変なことをいっしょに乗り越えてくれてありがとう。これからもたくさん迷惑かけたりすると思うけれど、よろしくね。」